

令和7年度
はちのへ大型公共施設見える化シート
(令和6年度決算分)

令和7年 11 月
八戸市行政管理課

目 次

1. 作成目的		1
2. 対象施設		1
3. 見える化シートの項目		2
4. 各施設の見える化シート		
①八戸市庁		4
②八戸ブックセンター		6
③八戸市美術館		10
④八戸ポータルミュージアム(はっち)		15
⑤八戸まちなか広場(マチニワ)		19
⑥八戸市長根屋内スケート場		23
⑦八戸市総合保健センター		28
⑧八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館		30
⑨八戸市立図書館		36
⑩八戸市博物館		40
【参考】令和6年度施設運営費の状況のまとめ		44

1. 作成目的

当市では、人口減少の進行等を背景とした公共施設の利用に関する市民ニーズの変化に対応するとともに、長期的な視点による計画的な施設更新や老朽化対策、財政負担の軽減・平準化と施設の最適な配置を図るための基本方針として、「八戸市公共施設マネジメントの推進に係る基本方針」を策定し、当方針に基づき、公共施設等の適切な管理を推進しています。

また、その推進に当たっては、市民の理解が不可欠であるため、主要な大型公共施設に係る維持管理コスト等の情報について、分かりやすい形で「見える化」することとしています。

「見える化」の取組は、各施設への市民の理解をより深めていただく観点から、施設ごとに有する特性を含め様々な角度からの情報をわかりやすく伝えることで、市の公共施設マネジメントに係る市民の理解を得ることに加え、各施設における便益とコストのバランス等への関心を高めるとともに、市職員の公共施設に対するコスト意識の向上につながることを期待されます。

このようなことから、主要な大型公共施設について、施設の基本的な情報や管理運営に要した費用、利用状況などに加え、地域の活性化等に向けた各施設の取組状況など、施設ごとの特性を総合的に把握するための資料として、「はちのへ大型公共施設見える化シート」(以下「見える化シート」という。)を作成し、今後の施設の有効利用につなげていくこととしています。

2. 対象施設

見える化シートの対象施設については、原則として、市の直営施設であり相当数の利用者に利用されている公共施設から、次の 10 施設を選定しました。

- ①八戸市庁、②八戸ブックセンター、③八戸市美術館、④八戸ポータルミュージアム(はっち)、
- ⑤八戸まちなか広場(マチニワ)、⑥八戸市長根屋内スケート場、⑦八戸市総合保健センター、
- ⑧八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、⑨八戸市立図書館、⑩八戸市博物館

※指定管理者制度を導入している施設については、毎年度、収支状況や利用状況を公表していることから対象外としています。

3. 見える化シートの項目

見える化シートは、施設ごとに固定資産台帳の情報を基本として、以下の項目により作成しています。なお、掲載されていない各施設の詳しい内容については、所管課へお問い合わせください。

(1) 基本情報

項目	記載内容
施設名称	施設の名称を示しています。
所在地	施設の所在地を示しています。
所管部署	所管課を示しています。
設置の目的	施設の設置目的を示しています。
施設の写真	外観等、施設を象徴するアングルでの写真を示しています。

(2) 管理・運営の概要

項目	記載内容
土地	土地面積
	所有状況
	用途地域
建物	下記の項目を示しています。 <項目> 建物名称、建築年月日、延床面積、構造、階数、整備費用（解体費用及び用地取得費用を除き、基本設計及び詳細設計費用は含みます。）、財産区分、耐震診断（診断結果）
運営	開館時間
	休館日
	開館日数
	運営形態
利用	主な利用・来館者
	延利用・来館者数
	1日当たり利用・来館者数
駐車場	駐車場の有無、利用時間等を示しています。
職員数	施設に常駐する職員数を示しています。 ・正職員 ・会計年度任用職員
バリアフリーの状況	車いす駐車場、出入り口のスロープ、障害者用エレベーター、オストメイト対応トイレの設置状況を示しています。
自家発電設備等	自家発電設備の整備状況、再生可能エネルギー設備がある場合はその種類を示しています。
災害避難指定	施設が指定緊急避難場所、指定避難所に指定されているかを示しています。 なお指定緊急避難場所に指定されている場合は、災害の種類を示しています。

(3)施設運営費の状況

項目		記載内容
支出	人に係る経費	報酬、給与、各種手当、共済費等に係る費用を示しています。
	企画運営経費	展示会・イベント開催等の企画事業、自主事業に係る費用を示しています。
	地元発注率	市内に本店・営業所等がある事業者へ発注している割合を示しています。
	施設の維持管理費	施設の維持管理経費(光熱水費、委託料等)と施設運営に要する事務経費等 示しています。
	地元発注率	市内に本店・営業所等がある事業者へ発注している割合を示しています。 (光熱水費を除く)
	合計	上記費用の合計を示しています。
収入(財源)	使用料	施設使用に係る収入を示しています。 (例:施設使用料・貸館等使用料・入場料等)
	その他	施設使用料以外の収入がある場合は示しています。 (例:施設の貸付により得られる収入、運営経費等に係る国庫補助金、広告料に よる収入など)
	一般財源	市税や地方交付税などのように、使い道が特定されておらず、どのような経費 にも使用できる財源を示しています。
	合計	上記収入の合計を示しています。
施設運営費の特徴		施設運営費における各施設の特徴を説明しています。

※経常的な施設運営費を把握するため、金額が300万円以上の大規模改修に係る経費は除いています。

※庁舎及び保健センターについては、様々な業務を行う総合的な行政機関であり、目的や利用状況が他施設とは異なるため、施設の維持管理費のみ示しています。

(4)取組の状況

項目	記載内容
設置条例	施設の設置根拠となる条例を示しています。
運営方針等	施設の運営方針等を示しています。
取組の内容	施設ごとに設置目的、施設の活用、企画内容は異なっており、一律の指標で 運営状況を捉えることは困難であることから、施設独自の指標や観点をういて 取組の状況を記載しています。 また、維持管理費と財源の見通しとして、維持管理費の削減や収入の増加に 向けた取組内容を記載しています。

【参考】令和6年度施設運営費の状況のまとめ

施設運営に要した費用を項目ごとに施設間で比較した上で、それぞれの項目において特徴のある施設について説明したものです。

基本情報

施設名称	八戸市庁	
所在地	八戸市内丸一丁目1番1号	
所管部署	行政管理課	
設置の目的	全市民に対する総合的な行政サービスを提供するための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	21,830.00	m ²	所有状況		市有地							
	用途地域	商業地域											
建物	建物名称	八戸市庁											
	建築年月日	【本館】昭和55年12月24日 【別館】平成10年2月9日											
	延床面積	23,602.63	m ²	構造	本館	鉄筋コンクリート	階数	地上	5	地下	1		
	整備費用	4,689,153	千円		別館	鉄筋コンクリート			10		1		
	耐震診断	実施済			財産区分		行政財産						
運営	開館時間	8:15～17:00			診断結果		対応不要						
	休館日	毎週日、祝日、年末年始											
	開館日数(日)	R4	297	R5	297	R6						295	
	運営形態	直営											
利用	主な利用者	市民(全市的)		職員									
	延利用者数(人)	R 利用者数の把握ができないため、											
	1日当たり利用者数(人)	R 空欄としています。											
	利用料金	入館料				貸館利用料							

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	有	自動車	有	正職員	会計年度任用職員	
利用時間	7:00～22:00	原付・バイク	有			
入出庫時間	7:00～22:00	自転車	有			
バリアフリーの状況				自家発電設備等		
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備	
○	○	○	○	○	太陽光発電(10kW)	
災害指定避難						
指定緊急避難場所					蔵書数 (冊)	
指定避難所						
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山		
－	－	－	－	－	－	

施設運営費の状況								(単位:千円)
		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率	
支出	人に係る経費	—		—		—		
	企画運営費	—	—	—	—	—	—	
	施設の維持管理費	367,862	97%	364,884	98%	347,337	97%	
	うち、光熱水費	97,623		104,035		101,900		
	うち、委託料	150,548	96%	154,690	97%	155,817	95%	
	合計	367,862		364,884		347,337		
収入 (財源)	使用料	4,417		4,692		4,527		
	その他	7,169		16,328		8,858		
	一般財源	356,276		343,864		333,952		
	合計	367,862		364,884		347,337		
施設運営費の特徴								
1.施設の維持管理費(光熱水費・委託料)		来庁者及び勤務職員が多いため施設運営に当たり電気、都市ガス及び水道使用に係る経費が多くなっています。 また、延床面積が広いため清掃、警備に係る経費が多くなるほか、電話交換、受付案内及びその他保守点検等委託にも一定の経費を要しています。						
2.施設の維持管理費(その他)		来庁者の駐車料金の減免に係る経費や電話等の使用に係る経費、その他庁舎の運営に係る経費等、多岐にわたって一定の経費を要しています。						
3.その他		その他収入の主なものは建物貸付収入や広告料収入です。 (令和5、6年度は、電力契約における節電達成特典収入を含む。)						
		支出経費の構成割合(令和6年度) 維持管理費 (光熱水費) 28% 維持管理費 (委託料) 46% 維持管理費 (その他) 26%						

取組の状況																				
設置条例	—																			
運営方針等	① 事務及び事業が迅速かつ的確に遂行されるよう、庁舎の秩序維持と適切な維持管理を行います。 ② 庁舎周辺及び市民広場について、市民の憩いの場としての美観の維持と環境保全に努めます。																			
取組の内容	1.維持管理費と財源の見通しについて ○過去3年度における施設運営費の平均 (単位:千円) <table> <tr> <td rowspan="4">支出</td><td>施設の維持管理費</td><td>360,028</td></tr> <tr> <td>うち、光熱水費</td><td>101,186</td></tr> <tr> <td>うち、委託料</td><td>153,685</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>360,028</td></tr> <tr> <td rowspan="4">収入 (財源)</td><td>使用料</td><td>4,545</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>10,785</td></tr> <tr> <td>一般財源</td><td>344,697</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>360,028</td></tr> </table> (1)維持管理費について ①施設維持管理の状況 平成30年3月に策定した庁舎の個別施設計画に基づき、八戸市庁舎の建築物が性能や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保し、保持し続けるよう維持管理を行います。 また、施設の保全にあたっては、施設の使用目的や規模に応じて、安全の確保、業務継続の可否、管理運営の効率化、施設の長寿命化、ユニバーサルデザイン化並びに省エネルギー化などの社会的要求水準の確保に努めます。 ②維持管理費削減の取組 ・電話交換設備への自動応答設備導入による人件費の削減(R2) ・空調設備運用方法見直しによるエネルギーコストの削減(R2) ・照明設備のLED化に伴うエネルギーコストの削減(H29～R4) ・保守点検業務の委託内容の見直しによる保守点検コストの削減(H30～R3) (2)財源の見通しについて 施設使用料のほか市税や地方交付税などの一般財源を基本に、その他収入として建物貸付収入や広告料収入を引き続き確保するとともに、新しい財源の確保に努めていきます。		支出	施設の維持管理費	360,028	うち、光熱水費	101,186	うち、委託料	153,685	合計	360,028	収入 (財源)	使用料	4,545	その他	10,785	一般財源	344,697	合計	360,028
支出	施設の維持管理費	360,028																		
	うち、光熱水費	101,186																		
	うち、委託料	153,685																		
	合計	360,028																		
収入 (財源)	使用料	4,545																		
	その他	10,785																		
	一般財源	344,697																		
	合計	360,028																		

見える化シート

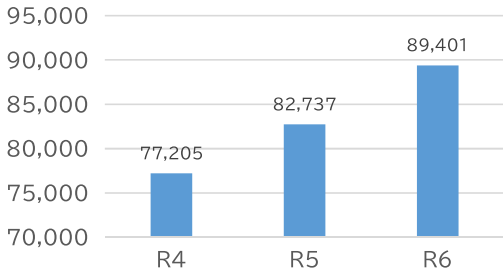
基準日

令和7年3月31日現在

基本情報

施設名称	八戸ブックセンター	
所在地	八戸市大字六日町16番地2 ガーデンテラス1 階	
所管部署	文化創造推進課	
設置の目的	本と出会う新たな機会を創出することにより市民の豊かな心を育み、文化の薫り高いまちを目指すとともに、中心市街地の活性化に寄与するため、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	315.00			m ²	所有状況	私有地						
	用途地域	－											
建物	建物名称	八戸ブックセンター											
	建築年月日	平成28年12月4日											
	延床面積	315.00			m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	4	地下	－	
	整備費用	120,876			千円	財産区分	－						
	耐震診断	不要				診断結果	－						
運営	開館時間	10:00～20:00 日曜・祝日は19:00まで					延利用者数(人) 						
	休館日	毎週火曜及び年末年始(12/29～1/1)											
	開館日数(日)	R4	308	R5	307	R6							309
	運営形態	直営											
利用	主な利用者	市民(全市的)		市外からの観光・ビジネス客									
	延利用者数(人)	R4	77,205	R5	82,737	R6	89,401						
	1日当たり利用者数(人)	R4	251	R5	270	R6	289						
	利用料金	入館料					貸館利用料						

駐車場の有無				職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	－	正職員	会計年度任用職員
利用時間	－	原付・バイク	－		
入出庫時間	－	自転車	－	3	4
バリアフリーの状況				自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
－	○	○	○	－	－
災害指定避難					蔵書数 (冊)
指定緊急避難場所				指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災		
－	－	－	－	－	

施設運営費の状況							(単位:千円)
		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	39,320		43,183		47,034	
	企画運営費	14,242	64%	14,543	86%	20,829	19%
	施設の維持管理費	43,397	99%	37,874	99%	39,026	99%
	うち、光熱水費	1,529		1,234		1,299	
	うち、委託料	7,189	100%	3,269	100%	3,095	100%
	合計	96,959		95,600		106,889	
収入 (財源)	使用料	372		418		497	
	その他	26,792		32,110		41,399	
	一般財源	69,795		63,072		64,993	
	合計	96,959		95,600		106,889	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 主に企画運営事業に4人、その他の施設運営や管理に3人の職員が従事しています。選書や企画運営に専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較し長く、また休館日も少ないことからシフト制とするなど、施設運営に必要な職員を配置しています。 2. 企画運営費 ・基本方針に基づいた企画事業を実施するための経費を要しています(ゲスト謝礼、企画事業委託料等)。令和6年度は、「本のまち八戸」魅力創出イベント事業を実施したことにより、企画運営費が増となっています。 ・書籍の仕入約11,400千円は棚卸資産であり、書籍が売れたときに費用となる性質のものですが、企画運営費に含めて計上しています。書籍を返品した場合は、仕入にかかった金額は全額市に返納されます。 3. 施設の維持管理費 ・テナントとして入居しており、建物借上料(15,629千円)を要しています。 ・令和6年度は修繕料や清掃、廃棄物収集運搬業務委託料、備品購入費が増となり、総額としても増となっています。 4. その他 ・その他収入の主なものは、書籍・雑貨売上収入、ブックセンター事業費寄付金です。令和6年度は寄付金や書籍・雑貨売上収入が増となったほか、「本のまち八戸」魅力創出イベント事業の財源である協働のまちづくり推進基金繰入金があったため増となっています。				人に係る経費 44% 維持管理費(その他) 32% 維持管理費(委託料) 3% 維持管理費(光熱水費) 1% 企画運営費 20%			

取組の状況	
設置条例	八戸ブックセンター条例
運営方針等	八戸ブックセンター基本計画書に定める施設運営の基本方針
取組の内容	1. 施設の特徴 八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、新しい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行しています。 【基本方針】 (1) 本を読む人を増やす 本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくするような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントなどを開催します。 (2) 本を書く人を増やす 本を「書く人」を増やすために、執筆専用のブースを備え無料で貸し出しするほか、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催を行います。 (3) 本でまちを盛り上げる 本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものであることから、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。 ※八戸ブックセンターの幅広い利用を促すため、令和5年12月に、こども・子育て・暮らしのテーマ棚を新設するなどの見直しを実施。

2. 主な事業

(1)セレクトブックストアの推進

様々なジャンルの入口となる本をセレクトして並べる提案型の棚づくりにより、知的好奇心を喚起すると共に、新たな本や未読のジャンルとの出会いを演出します。また、雑誌やコミック、売れ筋の新刊を中心に扱う民間書店には並び難い本を取り扱い、大型書店のある大都市との文化的環境の格差を解消することに寄与します。

(2)本のまち読書会の開催

様々なテーマを設定した「読書会」の開催や、作家・編集者・出版社などからゲストを招いたトークイベントなどを開催することにより、新たな本との出会いの創出、更に深く本を読むきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「連続講座：哲学者の音喜多さんとサンデルを読んで『正義』の話をしよう」など

(3)アカデミックトークの開催

教育機関や文化施設などから講師を招き、本を軸にした、各分野からの専門的なトークイベントを開催することにより、本に対する興味を湧き立たせることに繋がっています。

【令和6年度】市内大学教授、県内美術館等文化施設の学芸員、地元研究家など

(4)執筆出版ワークショップの開催

小説や自分史、電子書籍のつくり方など、作家や専門家をゲストに招きながら執筆や出版に関するワークショップの開催などにより、「ものを書く・つくる楽しさ」、「発表し、観てもらおう体験」に繋がっています。

【令和6年度】「ZINEステップアップ講座」、HACHINOHE ZINE CLUBミーティング・展示販売会など

(5)ギャラリー展の開催

特定の作家や作品に関する展示、本の印刷・造本・装丁など、本を切り口とした様々な展示を行うことにより、本を手に取り興味をふくらませるきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「絵本雑誌・さがるまーたができるまで」、「本のまち こんなまち」など

(6)パワープッシュ作家イベントの開催

トークイベントや展示などで八戸に関係する作家、作品を幅広く紹介することにより、「本のまち八戸」を盛り上げるきっかけに繋がっています。

【令和6年度】「能町みね子×高橋弘希 読めない2人のスペシャルトーク&サイン会」など

(7)ブックサテライト増殖プロジェクトの実施

市内の飲食店、公共施設などと呼びかけ「ブックサテライト」として本箱を設置。それぞれの施設に合わせて選書した本を置くことにより、その場所にあった本棚がある「まち」を目指しています。

(8)本のまち八戸ブックフェスの開催

年に一度、ブックセンター、マチニワ、はっちで開催するイベントで、市民参加型の一箱古本市や市内書店の出店をはじめ、庁内関係部署とも連携しながら、本に関する様々な企画を実施することにより、本への興味喚起や中心街への来街動機に繋がっています。

(9)施設の活用(読書会ルーム)

市内読書団体などへの貸出のほか、様々な企画事業にも活用しています。企画事業参加者等へ施設利用方法が浸透してきたことにより、読書会による利用を中心に、令和5年度と比較して19件の増となっており、新たなコミュニティ形成、中心街への来街動機に繋がっています。

(10)施設の活用(カンヅメブース)

本などを執筆したい人向けに貸出しています。施設の認知度が向上してきたことや、企画事業参加者への周知等により、令和4年度から年間300件前後の利用があります。実際に本が出版されるケースも出てくるなど、「書く」ことへの動機に繋がっています。

(11)教育機関との連携

各教育機関と連携し、ブックセンター内に留まらず、各校に出向いたり、各種行事においてトークやワークショップ、その他の企画を実施することにより、若年層に向けた本への興味喚起、体験づくりに繋がっています。

(12)「元気な八戸づくり」市民提案制度(市設定テーマ部門):「本のまち八戸」魅力創出イベント事業の開催

読書量の減少、読書離れが進む中、「本のまち八戸」を盛り上げるとともに、本に対する興味喚起を図るため、ジャーナリスト・池上彰さんによる講演のほか、おはなし会や本と雑誌のリサイクルフェアなどを実施しました。



読書会ルームでのイベント状況
(写真は読書会イベント)



ブックセンター以外の会場でもイベントを実施
(写真はギャラリー展トークイベント)



ギャラリー展「本のまち こんなまち」



本のまち八戸ブックフェス
(マチニワ会場)



ジャーナリスト・池上彰さんによる「本」や
「読書」の楽しさを伝える特別講演



本との偶然的な出会いを創出し、私有して
読む体験を促す「提案・編集型」の陳列

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	43,179
	企画運営費	16,538
	施設の維持管理費	40,099
	うち、光熱水費	1,354
	うち、委託料	4,518
	合計	99,816
収入(財源)	使用料	429
	その他	33,434
	一般財源	65,953
	合計	99,816

(1)維持管理費について

①維持管理費の状況

- ・民間書店と連携を図る取組の一環として、地元書店が設立した組合に対し書籍等の仕入販売返品業務を委託しています。
- ・テナントとして入居しているため、建物借上料を要しています。

②維持管理費の削減の取組

運営に支障がない範囲での光熱水費や一般事務経費の節減に努めており、今後も節減を継続していきます。

(2)財源の見通しについて

①収入の状況

一般財源を活用し専門人材や企画運営費を確保することで、民間書店や図書館で提供していない「本」に関連する公共性の高い事業やサービスの提供に努めています。文化・観光の視点からも施設の取り組みに注目され、年々「本のまち八戸」の推進を応援するふるさと寄付金が伸びており、一般財源の圧縮に繋がっています。(令和6年度ふるさと寄付金額：約23,000千円)

②収入増に向けた取組

今後も利用者の意見を聞きながら、幅広い利用に繋がる棚づくり、関係者と連携した企画事業を実施するとともに、観光コンテナツとして注目されている状況を活かし、全国への情報発信を通して、更なるふるさと寄付金確保にも努めていきます。

【参考】

1. 来館者数推移

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人
令和4年度	77,205人	6,434人	251人
令和5年度	82,737人	6,895人	270人
令和6年度	89,401人	7,450人	289人

2. 販売冊数推移

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊
令和4年度	7,017冊	585冊	23冊
令和5年度	6,881冊	573冊	22冊
令和6年度	8,640冊	720冊	28冊

3. 販売金額推移(書籍・雑貨合計額)

	累計	月平均	1日平均
令和2年度	10,863,851円	905,321円	36,456円
令和3年度	10,598,560円	1,059,856円	40,764円
令和4年度	11,688,510円	974,043円	37,950円
令和5年度	11,794,432円	982,869円	38,418円
令和6年度	14,531,198円	1,210,933円	47,026円

4. 施設の活用推移(読書会ルーム、カンヅメブース)

	読書会ルーム				カンヅメブース			
	貸館		自主事業		市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	計	月平均	計	月平均	登録者数	(累計)	計	月平均
令和2年度	50件	4件	32件	3件	24名	259名	278件	23.2件
令和3年度	52件	5件	14件	1件	15名	274名	190件	19.0件
令和4年度	87件	7件	16件	1件	28名	302名	307件	25.6件
令和5年度	152件	13件	23件	2件	17名	319名	309件	25.8件
令和6年度	171件	14件	47件	4件	29名	348名	290件	24.2件

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10カ月で算出(1～4の全て)

見える化シート

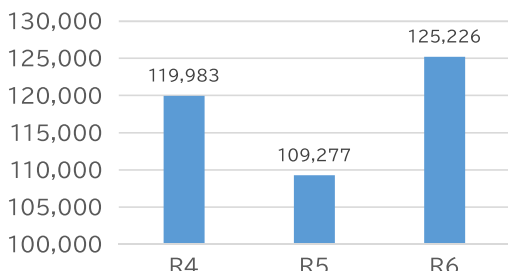
基準日

令和7年3月31日現在

基本情報

施設名称	美術館	
所在地	八戸市大字番町10番地4	
所管部署	美術館	
設置の目的	美術品等の収集、保管及び展示並びに美術等に関する調査研究及び普及活動を行うことにより、市民の文化及び芸術の振興に資するとともに、文化芸術活動を通じた様々な出会い、学び及び交流の機会を提供し、新たな文化の創造と八戸市全体の活性化を図るための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	5,311.21			m ²	所有状況	市有地						
	用途地域	商業地域											
建物	建物名称	美術館											
	建築年月日	令和3年1月8日											
	延床面積	4,844.95			m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	3	地下	-	
	整備費用	3,339,650			千円	財産区分	行政財産						
	耐震診断	不要				診断結果	-						
運営	開館時間	10:00～19:00					延利用者数(人) 						
	休館日	毎週火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始											
	開館日数(日)	R4	311	R5	310	R6							310
	運営形態	直営											
利用	主な利用者	市民(全市的)		観光客		文化芸術団体							
	延利用者数(人)	R4	119,983	R5	109,277	R6	125,226						
	1日当たり利用者数(人)	R4	386	R5	353	R6	404						
	利用料金	入館料	無料(企画展観覧料は展覧会ごとに異なる)				貸館利用料	八戸市美術館条例による					

※令和3年11月3日開館

※利用料金の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	－		正職員	会計年度任用職員等
利用時間	－	原付・バイク	有			
入出庫時間	－	自転車	有		12	8
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ		自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
○	○	○	○		○	－
災害指定避難						蔵書数 (冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山		
－	－	－	－	－	－	

施設運営費の状況							(単位:千円)
		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	96,436		106,791		118,169	
	企画運営費	72,012	65%	57,799	49%	63,412	49%
	施設の維持管理費	140,408	83%	152,699	84%	173,656	83%
	うち、光熱水費	36,270		35,018		37,717	
	うち、委託料	92,553	85%	104,049	87%	119,622	80%
	合計	308,856		317,289		355,237	
収入 (財源)	使用料	14,590		8,926		8,113	
	その他	13,926		5,298		9,464	
	一般財源	280,340		303,065		337,660	
	合計	308,856		317,289		355,237	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1.人に係る経費 展覧会開催や美術作品の調査研究・収集保存など企画運営業務に11人、施設の日常的な管理や貸館対応、広報など総務経営業務に7人の職員が従事しています。企画運営業務には学芸員等の専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較して長く、また休館日が少ないことから、1日2交代のシフト制とすることで、開館時間は常時一定人数の職員を配置するようにし、運営に支障をきたさないようにしています。 2. 企画運営費 年に3回程度開催する大型の展覧会開催にかかる経費及び、集客を図るための新聞・テレビ等への広告掲出に一定の経費を要しています。 3. 施設の維持管理費 収蔵品や展示品の適切な管理のため、24時間の空調運転・温湿度管理が必要となり、これに伴う光熱費及び、機器の保全を図るための委託料を要しています。 また、貸館受付やチケット販売等の総合案内業務、展示室の監視業務等に一定の経費を要しています。 ※令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。 4. その他 その他収入の主なものは助成金や建物貸付収入(自動販売機、多目的室)です。				維持管理費(その他) 5% 人に係る経費 33% 維持管理費(委託料) 33% 企画運営費 18% 維持管理費(光熱水費) 11%			

取組の状況	
設置条例	八戸市美術館条例
運営方針等	八戸市新美術館整備基本構想、八戸市新美術館管理運営基本計画、八戸市新美術館中期運営計画
取組の内容	1. 施設の特徴 「ひと」が活動する空間を大きく確保し、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として旧美術館からの建替・新築で開館し、人を育み、まちや暮らしをより豊かなものとするための展覧会やプロジェクトを展開しています。 2. 主な事業 (1)展覧会開催・市民利用促進 誰もが気軽にアートに触れられる機会を提供する展覧会と、市民とともにアートを介して出会いや学びを誘発する様々なプロジェクトを展開することにより、アートのまちづくりの中核施設として美術館運営を図ります。多様な市民ニーズに応えるため、年間を通じてさまざまなジャンルの展覧会を開催するなど、美術に関心のある人に加え、これまで美術館に来館したことのない人にも足を運んでもらえるような展覧会やイベントを実施します。 ①令和6年度入館者数 125,226人(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

取組の状況

②展覧会観覧者数

展覧会名	観覧者数	会期(日数)	備考
展示室の冒険	3,977人	R6.4.20～R6.6.24(58日)	一般800円、高校生以下無料
tupera tuperaのかおてん.	27,297人	R6.7.6～R6.9.1(51日)	一般1,000円、中・高校生600円、子ども500円(2歳以下無料)
風のなかを飛ばす種子青森の教育版画	6,715人	R6.10.12～R7.1.13(78日)	一般1,000円、大学・高校生500円、高校生以下無料
八戸アーティストファイル2025 Finding Our Beauty	2,427人	R7.2.15～R7.4.7(46日)	一般500円、高校生以下無料
コレクションラボ007「太久保景造と八戸文化」	7,333人	R6.3.23～R6.7.8(92日)	観覧無料
コレクションラボ008「彩る書」	10,361人	R6.7.13～R6.10.28(93日)	観覧無料
コレクションラボ009「リビングルーム」	7,098人	R6.11.2～R7.2.24(96日)	観覧無料
コレクションラボ010「西野こよ 表現への挑戦」	1,984人	R7.3.23～R7.6.15(92日)	観覧無料

③展覧会観覧者への割引制度

未就学児、小中学生は観覧無料

(八戸市と連携中枢都市圏域町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町))

項目	概要
かおパス	何度でも同じ展覧会を鑑賞できるフリーパス。展覧会ごとに料金を設定しており、会期内に初回登録すれば、2回目以降は当館入口に設置しているサーモカメラの顔認証システムにより認証
駐車場割引	近隣の駐車場を利用していることが分かる駐車券や駐車証明書の提示により、運転者1名分に団体料金を適用する割引
団体割引	20名以上は観覧料に割引を適用
シニア割引(市内圏域65歳以上割引)	八戸市と周辺町村にお住まいの65歳以上の方は観覧料に割引を適用
障がい者割引	障がい者手帳をお持ちの方とその付添者1名は観覧料に割引を適用

④貸館の実施状況

項目	件数	主な内容
貸館	102	書道展、絵画展、写真展、ワークショップ など

※年2回 貸館利用者説明会を実施(HPでは随時案内)

(2)各種プロジェクトの推進

美術館の特徴的な空間である「ジャイアントルーム」を拠点に、アーティストや市民等と一緒に交流しながら共同創作活動を行う各種プロジェクトを行うことで、アートを通じた出会いや学びにより、従来の立場や枠組みを超え、人を育み、アートがもたらす本質的な価値観に加え、新たな価値観(経済的価値、社会的価値)を生み出す等、まち全体の活力につなげます。

取組の状況

主なプロジェクト参加者数

ア. アートファーマープロジェクト(抜粋)

プロジェクト名	参加者数	開催日(開催期間)
きむらとしろうじんじん八戸野点プロジェクト	・プロジェクトメンバー 24人 ・一般参加者数 約300人	(プロジェクト期間)R6.7~10 (野点)R6.10.6
あそらぼ!	・プロジェクトメンバー 30人	(プロジェクト期間)R6.6~12
八戸市美術館建築ツアーガイド	・プロジェクトメンバー 33人 ・ガイドツアー参加者数 各回約10人	(講座)年4回 (ガイド)毎月最終土曜日
アートファーマーミーティング	・参加者数 30人	

イ. 学校連携プロジェクト(抜粋)

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
みんなでじっくり鑑賞ナビ	第1回 R6.6.1 第2回 R6.6.21	プロジェクトチームメンバーの教員2名が、教員ならではの視点で作品鑑賞をナビゲート(1回目10人、2回目11人)
出張授業「風のなかを飛ぶ種子青森の教育版画:」	①R6.12.3②R6.12.9 ③R6.12.11④R6.12.18	展覧会に関連し、教育版画に触れる機会や美術館へ足を運ぶきっかけづくりとして、希望する学校へ出張授業を実施(参加者数:計268名)
はみ出す力展 vol.6 ~授業の展覧会2024~	R7.1.23~R7.1.26	「はみ出す力」をテーマに、各地の幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校や大学などで行われた造形美術の授業実践を紹介する展覧会(参加者数:約400人)
八戸市小学校図画工作科教育研究会研究授業	R6.11.13	学芸員と教員が相談して授業案を作成し、オンラインでの事前授業参加や展示会場内での対話鑑賞のファシリテーションを担った。研究授業後は、館内で教員が研究協議会を実施した。(参加者数:小学生24名、教員80名)

ウ. アートの学び事業(抜粋)

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
三校連携創作体験ワークショップ	第1回 R6.6.16 第2回 R6.11.3 第3回 R6.11.9	八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学、八戸工業高等専門学校の3校の教員が講師となり、美術館の展覧会に関連したワークショップなどを開催(開催数:3回、参加者数:62人)
学生×社会人のアートの学び実践講座事業	第1回 R6.10.18 第2回 R6.11.16 第3回 R6.12.7	外部講師を招聘し、学生と一般参加の社会人が一緒にワークショップやディスカッションなどを行いながら、「アートから生まれるプロダクト」や「Well-being」について考え、実践に繋がる講座を開催。(開催数:3回、参加者数32人)
美術館のアクセシビリティ向上事業	R6.8.31~R7.2.26	・保育士を目指している学生が運営する託児スペースを6日間開設。(利用者数40名) ・展覧会開催期間中に、小さな子どもとその家族が気兼ねなく鑑賞できる日「ハッピーファミリーアワー」を3日間運営。

エ. その他プロジェクト(抜粋)

プロジェクト・イベント名	開催日	内容
ヨルニワ	R6.6.8 R6.10.5	八戸市更上閣・八戸ポータルミュージアム「はっち」・八戸市美術館を会場に、キッチンカーや飲食屋台と音楽ライブを楽しむ屋外イベント。
八戸えんぶりin美術館	R7.2.18	櫛引上えんぶり組によるえんぶり披露
はちのへ木の魅力たっぷり おもちゃフェスティバル	R6.9.14~R6.9.16	八戸を代表する作家の作品を中心に、グット・トイ広場、人形劇やお話会のほか、ジャイアントルームにツリーハウスを展示。

(3)学校の見学の受入れ(令和6年度実績)

学校の見学の受入れを行っています。美術館スタッフによる館内案内や、展示作品の対話的な鑑賞サポートを行っています。

項目	受入校数	生徒数	内訳
社会科見学	30校	836人	市内:27校 732人/市外:3校 104人

(4)視察の受入れ(令和6年度実績)

県内外の市町村職員、議会関係者、美術館、大学等の視察の受入れを行っています。

項目	受入件数	人数	内訳
視察	46件	328人	・都道府県、市町村:9件 58人 ・県議会、市議会:9件 74人 ・設計、建築:4件 46人 ・文化団体:1件 2人 ・大学:16件 131人 ・美術館:3件 9人 ・その他:4件 8人

取組の状況

(5)共創企画

企画名	開催日	内容
共に創る！アートのまちづくり魅力発見事業	R6.4.1～R7.3.31	「アートのまちづくり」の具現化に向けて、LINE公式アカウント「ヨッテミッテ」での歴史・文化・芸術関連のイベント情報発信、街なかアートマップの作製、共創パートナー※同士が交流するパートナーミーティングの開催などを行った。 ※共創パートナー：美術館活動を一緒に行う市民や団体、企業のこ

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	107,132
	企画運営費	64,408
	施設の維持管理費	155,588
	うち、光熱水費	36,335
	うち、委託料	105,408
	合計	327,127
収入(財源)	使用料	10,543
	その他	9,563
	一般財源	307,022
	合計	327,127

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

美術館は、地域にゆかりのある作家の美術品を中心に、約3,000点の収蔵品を保管する収蔵庫を有しています。これらの収蔵品は、後世へ継承していかなければならない「地域の宝」であり、適切に保管する必要があります。このため、収蔵庫内は作品に合わせて24時間温湿度管理を維持しており、劣化した作品は修復するなど適切な対応が求められることから、一定の維持管理費を要しています。

また、他館から貴重な作品を借用して展示する場合は、展示室内の温湿度など空気環境のデータ提出を求められることから、展覧会開催の有無に関わらず、通年で展示室内の空気環境を保つ必要があり、ここにも一定の維持管理費を要しています。

美術館は令和3年11月に開館し、令和4年度から通年ベースでの営業となったため、警備・清掃業務や総合案内業務等の委託料や光熱水費が増えています。

②維持管理費削減の取組

全館でLED照明を設置し、高効率空調設備を導入するなど省エネルギー化が図られています。また、節電を意識的に行ってきたこともあり、当初見込みよりも光熱水費を抑えられていることから、引き続き、光熱水費の抑制に努めます。

(2)財源の見通しについて

貸館利用のように施設を占有する利用者からは受益者負担として施設使用料を徴収しています。一方で、収蔵品の保存や展覧会の企画・開催にかかる経費には、観覧料を徴収して財源に充てていますが、収蔵品は広く市民の財産であること、また、誰もが容易に美術作品を鑑賞したり、文化芸術活動に参加できる機会を提供する必要があるという観点から、市税や地方交付税などの一般財源を充てることで、観覧料を低廉なものとしています。また、建物貸付収入や、各種補助金・助成制度を活用するなど、一般財源以外の財源確保に努めていきます。

<参考写真>



<ヨルニワ>



<展覧会「展示室の冒険」>



<きむらとしろうじんじん八戸野点>



<出張授業「風のなかを飛び種子青森の教育版画」>



<あそらぼ！>

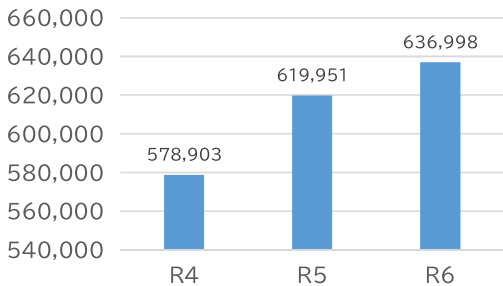


<市民の貸館展示>

基本情報

施設名称	八戸ポータルミュージアム	
所在地	八戸市大字三日町11-1	
所管部署	八戸ポータルミュージアム	
設置の目的	中心市街地に賑わいを創出し、八戸市全体の活性化を図るため、市民交流、文化創造及び観光の拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	3,387.62		m ²	所有状況	市有地							
	用途地域	商業地域											
建物	建物名称	八戸ポータルミュージアム											
	建築年月日	平成22年11月25日											
	延床面積	6,510.34		m ²	構造	鉄筋コンクリート	階数	地上	5	地下	-		
	整備費用	3,328,738		千円	財産区分	行政財産							
	耐震診断	不要			診断結果	対応不要							
運営	開館時間	9:00～21:00				来館者数(人) 							
	休館日	毎週火曜日・12/31・1/1											
	開館日数(日)	R4	351	R5	317							R6	316
	運営形態	直営											
利用	主な来館者	市民(全市的)		観光客		貸館利用料 八戸ポータルミュージアム条例による							
	延来館者数(人)	R4	578,903	R5	619,951							R6	636,998
	1日当たり来館者数(人)	R4	1,649	R5	1,955							R6	2,015
	利用料金	入館料	無料										

※令和5年度より休館日を毎月第2火曜日から毎週火曜日へ変更。

※利用料金(貸館)の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	有(貸館利用者のみ)	自動車	15	正職員	会計年度任用職員	
利用時間	9:00～21:00	原付・バイク	有			
入出庫時間	9:00～21:00	自転車	有	11	13	
バリアフリーの状況				自家発電設備等		
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備	
○	－	○	○	○	－	
災害指定避難					蔵書数 (冊)	
指定緊急避難場所				指定避難所		
洪水	土砂	地震	大規模な 火災			火山
○	○	○	○			○
					1,295	

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	123,130		122,564		137,716	
	企画運営費	24,820	81%	27,554	76%	28,674	74%
	施設の維持管理費	140,844	91%	139,570	90%	146,391	
	うち、光熱水費	30,746		32,157		32,977	
	うち、委託料	90,573	92%	88,365	92%	90,490	91%
	合計	288,794		289,688		312,781	
収入 (財源)	使用料	15,397		16,336		16,174	
	その他	2,161		2,613		23,295	
	一般財源	271,236		270,739		273,312	
	合計	288,794		289,688		312,781	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 八戸ポータルミュージアムのスタッフは、マチニワの管理運営も兼務し、主に企画運営には学芸員を含めた11人、その他の施設運営管理に12人従事しています。本庁と比較すると1日の開館時間が長く、また休館日も少ないことからシフト制としています。マチニワと併せて年間約3,000件の施設利用の使用許可事務及び設営等利用補助に対応するための人員を配置しています。 2. 企画運営費 運営方針(基本方針)に基づき、企画事業を実施しています。また、イベント等の周知のための情報発信経費も必要となっています。 3. 施設の維持管理費 アーティストが滞在しながら創作活動に取り組むアーティスト・イン・レジデンス事業への対応などから、有人による24時間警備を行っているほか、施設利用に関する受付案内や観光案内などのインフォメーション業務、貸館受付に必要なシステム経費などを要しています。 また、清掃業務委託では、日常清掃に加え、貸館利用の都度部屋を掃除している他、昇降機設備、専門性の高いシアター設備の維持管理にも一定の経費を要しています。 4. その他 その他収入の主なもの建物は建物貸付収入や施設等利用収入です。 ※こどもはっちに係る収入支出は除いています。				維持管理費(その他) 7% 人に係る経費 44% 維持管理費(委託料) 29% 維持管理費(光熱水費) 11% 企画運営費 9%			

取組の状況	
設置条例	八戸ポータルミュージアム条例
運営方針等	第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針 ―未来を創ろう 2030―
取組の内容	1. 施設の特徴 八戸ポータルミュージアム「はっち」は、新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指すため、平成23年2月11日に開館した施設です。 開館以来、誰でも気軽に立ち寄れる場としての「会所場づくり」、市民の創作活動をサポートする「貸館事業」、地域資源を生かした新たな価値の創造を目指す「自主事業」を施設運営の柱としており、さらに施設の中期的なビジョンや事業プランを中期運営方針として定め、各種事業を展開しています。 現在、令和3年に策定した第3期中期運営方針に基づき、10年後の理想の未来像に向けて、中心市街地と市全体の活性化に取り組んでいます。  【利用状況】 はっち館内には、芸術活動や市民活動をサポートする各種ギャラリーやスタジオ、多様なイベントが開催可能な大小2つのシアターを備え、5階にはアーティストが滞在しながら創作活動に取り組めるレジデンス施設を有しており、展示や物販、公演、講座やワークショップ、シニアの団らん、学生の勉強など、様々な属性の個人や団体による多種多様な活動が日常的に繰り広げられています。 ← 1F はっちひろば 3階まで吹き抜けの開放的な空間。作品展示・ステージ発表・講演会など多目的に使用可能。

○施設の利用状況の推移

	利用件数	月平均	1日平均
令和4年度	2,724件	227件	8件
令和5年度	2,959件	247件	10件
令和6年度	2,937件	245件	10件

※1日平均は各年度の開館日数で算出

○こどもはっち利用者(参考)

	利用者数	はっち入館者に対する割合
令和4年度	31,688人	5.47%
令和5年度	39,429人	6.36%
令和6年度	37,398人	5.87%

※こどもはっちの運営はこども未来課の所管

2. 主な事業 (令和6年度)

(1)放送スタジオ活用事業

はっち1階放送スタジオでは、コミュニティラジオ局BeFMによるラジオ番組「びびすた♪」の公開放送をしており、放送の様子を見ることができます。同番組の「はっち(アイ)」コーナーでは、はっちや中心街で開催するイベントの実施者がラジオに出演し、PRを行っています。

また、「はっち放送部」では、ラジオ放送や情報発信に興味がある高校生や大学生を募集し、BeFMスタッフ指導のもと、企画ミーティング、インタビュー、スタジオ収録、編集などを行ってラジオ番組を制作しました。

放送スタジオ活用事業(1)



はっち放送部

(2)アーティスト・イン・レジデンス事業 (AIR事業)

八戸の地域資源に焦点を当て、まちの新しい魅力を創り出すためにアーティストが滞在し、アーティストの視点で地域の魅力を掘り起こし、市民がアートに触れ、体験する機会を増やし、新たな発見や驚き、感動を生み出すアートプロジェクト。令和6年度は地域の魅力を大きな「のりまき」に巻き込むプロジェクトを実施しました。

(3)パフォーミングアーツ事業

市民へ質の高い舞台芸術の観賞機会を提供し、地域の舞台芸術・パフォーミング活動の活性化を図るため、シアター2を活用したパフォーミングアーツ公演を実施。令和6年度は3つの演劇公演を実施しました。

パフォーミングアーツ事業(3)

PANCETTA(パンチェッタ)
演劇公演「声」

(4)横丁活性化事業

横丁の魅力を内外に発信するため、10月を「八戸横丁月間 酔っ払いに愛を」とし、「酔っ払いに愛を実行委員会」を組織し、横丁の空き店舗などを会場としたアートイベント「横丁オンリーユーシアター」を実施しました。連携団体も、横丁月間中に様々なイベントを実施し、官民連携で横丁を盛り上げています。

(5)シーズンイベント

館内の季節感を演出し、中心街の賑わいを創出するため、季節に合わせたワークショップ・展示・館内装飾等や中心街のイベントと連携した企画等を実施。令和6年度は書道パフォーマンスやクリスマスイルミネーション等、年間で13の企画を実施しました。

シーズンイベント(5)



はっちのお正月 新春ステージ

(6)はっちFRYDAY LIVE!

音楽、ダンス、大道芸などライブやパフォーマンスを行える方を公募し、市民の表現の場所を提供することで、創造活動の支援ならびにまちの賑わい創出を図る事業として、全9回開催しました。

(7)はっちがずっぱど南部弁

南部弁の魅力を再発見し、後世に残すための取組として、南部弁によるトークショーを実施しました。

(8)暮らし学アカデミー

暮らしに身近な事について学び、その体験や学びを通して新たな価値観を発見することで、暮らしをより生き生きと豊かにすることを目的とし、八戸での暮らしを楽しむことにつながる多種多様な講座やワークショップを定期的に開催。令和6年度は23講座を開催しました。

(9)グリーンプロジェクト

植物を身近に感じ、暮らしに取り入れやすくなるよう、知識や技術を学びながら、緑を育む気持ちを育てていくプロジェクト。プロから直接学ぶ機会を創出し、植物をきっかけに集まった参加者同士がコミュニケーションをとりながら植物への理解を深めていく講座などを令和6年度は4回開催しました。

(10)手しごと関連事業

地元のものづくりに関する学びや体験を通して、地域に受け継がれてきた伝統や歴史を体感し、その魅力や価値を再認識する機会を創出するほか、魅力ある地域資源として内外へ発信する展示やワークショップ等を実施。令和6年度は、南部菱刺しに関する展示やトークイベントを実施しました。

手しごと関連事業(10)



天羽やよい展

(11)お祭り連携事業

八戸を代表するお祭り「八戸三社大祭」と「八戸えんぶり」の期間に合わせ、市民や観光客に祭りの魅力を多面的に発信し、はっちならでは祭りの楽しみ方を提供する展示や体験等の企画を実施。八戸三社大祭では、はっち2階ベランダに観覧席を設置したほか、小太鼓体験やミニチュア山車の展示、えんぶりの時期には、マチニワでのえんぶり公演や着付け体験を実施しました。

お祭り連携事業(11)



お祭りinはっち

(12)ものづくりスタジオ支援事業

中心街の賑わいの創出及び入居者が起業するためのノウハウ等を備えるための支援として、入居型の工房兼ショップである「ものづくりスタジオ」を館内に設置しています。

(13)マーケット事業

さまざまな「ひと・こと・もの」との出会いや交流が生まれ、「暮らし」について目を向けることで八戸の暮らしをより楽しむきっかけとなるクラフト市を実施。全国から公募で集まるクラフト作家のほか中心商店街の暮らしに関する商品を取扱う個店、キッチンカーなど65ブースが出展しました。出展者のスキルアップと横の関係を築くための交流会も実施しました。

共生社会プロジェクト事業(14)



盆踊りディスコ

(14)共生社会プロジェクト事業

文化芸術をツールに、多様な人々とのコミュニティを形成しながら、年齢や障がいの有無、経済的な状況に関わらず、等しく文化芸術に触れ、関わる機会を創出することを目的とし、令和6年度は、障がいの有無、年齢に関わらず、音楽と踊りをみんなで一緒に楽しむ盆踊り企画を実施しました。

3. 維持管理費と財源の見通しについて(はっち・マチニワ)

○過去3年度における施設運営費の平均

(単位：千円)

		はっち	マチニワ	合計
支出	人に係る経費	127,803	—	127,803
	企画運営費	27,016	2,256	29,272
	施設の維持管理費	142,268	45,051	187,319
	うち、光熱水費	31,960	4,880	36,840
	うち、委託料	89,809	37,694	127,503
合計		297,087	47,307	344,394
収入(財源)	使用料	15,969	1,167	17,136
	その他	9,356	—	9,356
	一般財源	271,762	46,140	317,902
	合計	297,087	47,307	344,394

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

はっち・マチニワは、市内各所から公共交通がアクセスし、ホテルが集積する中心市街地にあり、多くの市民や観光客が訪れる施設であるため、施設利用に関する受付案内や観光案内などのインフォメーション業務、貸館受付に必要なシステム経費などの維持管理費を要しています。また、館内利用者の利便性向上のための昇降機設備、舞台芸術などに用いられるシアターの音響・照明設備など、専門性の高い設備も数多く整備しているため一定の維持管理費を要しています。

その他にも、地震に強い免震構造を備えた施設で、中心街における防災拠点施設の一つとしての役割も担っていることから、利用者の安全性確保のための維持補修にも努めています。

令和8年2月には、開館から15年を迎えようとしており、今後は経年劣化が進んでいる空調設備やシアターの音響・照明設備の更新、トイレなどの水回りや昇降機の修繕により維持管理費が増加する見込みとなっています。

②維持管理費削減の取組

はっちでは、安価な夜間電力を用いて空調用熱源を確保する蓄熱式空調システムを採用し、効率的な空調管理を行っています。また、マチニワと一体で維持管理を行い、維持管理業務委託の仕様を見直すことで経費の削減を図っています。令和6年度から令和7年度の2か年で、館内照明のLED化を進めており、今後は消費電力が削減され、光熱水費が減少する見込みです。

(2)財源の見通しについて

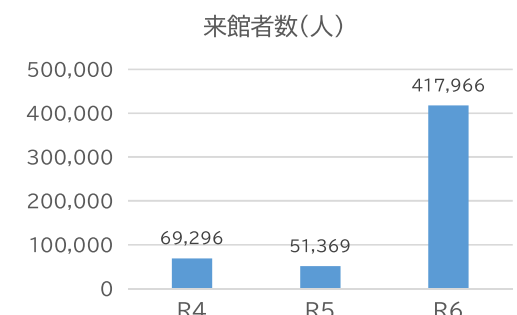
施設を占有しての利用については、はっち、マチニワを併せて年間の申請件数は2,500～3,000件程度、利用件数は年間3,000～4,000件となっており、公共利用などの減免利用を除き、受益者負担として施設使用料を徴収しています。多くの場合、これらの利用は無料あるいは有料な場合も低廉な料金で、誰もが参加や利用ができ、一般財源を活用し施設使用料の水準を抑えることで、利用申請者のみならず参加者を含めて幅広く市民等による利用や活動につながっています。これまで同様、施設の利用促進と収入の確保に努めていきます。

また、貸館利用に留まらず、市民活動やまちづくりのニーズを掘り起こし、文化や観光、まちづくりに関する市民参加型の企画事業に取り組むためのスタッフや事業に係る費用、更には誰もが気軽に安心して利用できる公共的な居場所としての機能を維持するための費用に一般財源を充てていますが、引き続き建物貸付収入や、企画に連動した補助金等その他の財源確保にも努めていきます。

基本情報

施設名称	八戸まちなか広場	
所在地	八戸市大字三日町21-1	
所管部署	八戸ポータルミュージアム	
設置の目的	街なかの「庭」のような役割を担うことを目的とし、地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促す拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

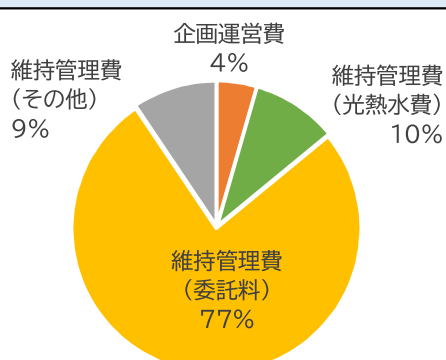
土地	土地面積	1,090.38			m ²	所有状況	市有地													
	用途地域	商業地域																		
建物	建物名称	八戸まちなか広場																		
	建築年月日	平成30年6月29日																		
	延床面積	1,249.85			m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	2	地下	1								
	整備費用	1,652,594			千円	財産区分	行政財産													
	耐震診断	不要				診断結果	－													
運営	開館時間	6:00～23:00					来館者数(人)  <table><thead><tr><th>年度</th><th>来館者数(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4</td><td>69,296</td></tr><tr><td>R5</td><td>51,369</td></tr><tr><td>R6</td><td>417,966</td></tr></tbody></table>						年度	来館者数(人)	R4	69,296	R5	51,369	R6	417,966
	年度	来館者数(人)																		
	R4	69,296																		
	R5	51,369																		
R6	417,966																			
	休館日	なし																		
	開館日数(日)	R4	364	R5	365	R6	364													
	運営形態	直営																		
利用	主な来館者	市民(全市的)			観光客															
	延来館者数(人)	R4	69,296	R5	51,369	R6	417,966													
	1日当たり来館者数(人)	R4	190	R5	140	R6	1,148													
	利用料金	入館料	無料				貸館利用料	八戸まちなか広場条例による												

※来館者数は、Wi-fi機能があるスマホを保有した人が5分以上6時間未満の滞在した人数をスマートフォン保有率で除して求めた推計値。

令和6年度以降は、AIカメラ1分毎の検知人数のうち、前1分との増加変動分のみを来館者として算出。

※利用料金(貸館)の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	無	自動車	－		正職員	会計年度任用職員
利用時間	－	原付・バイク	－			
入出庫時間	－	自転車	－		－	－
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ		自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
－	－	○	○		－	－
災害指定避難						蔵書数 (冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山		
－	－	－	－	－		

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	—		—		—	
	企画運営費	2,156	85%	2,348	71%	2,265	69%
	施設の維持管理費	39,819	94%	46,618	90%	48,717	84%
	うち、光熱水費	4,601		5,146		4,892	
	うち、委託料	34,208	95%	39,853	90%	39,021	89%
	合計	41,975		48,966		50,982	
収入 (財源)	使用料	1,034		1,034		1,434	
	その他	—		—		—	
	一般財源	40,941		47,932		49,548	
	合計	41,975		48,966		50,982	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 八戸ポータルミュージアムの職員が兼務しています。 2. 企画運営費 運営方針(基本方針)に基づき、企画事業を実施しています。また、イベント等の周知のための情報発信経費も必要となっています。 3. 施設の維持管理費 開館時間が6時から23時と長く、基本的に休館日を設けていないため、日常清掃や警備に関する費用が多くなっています。また、定期的にシンボルオブジェ「水の樹」や建物全面のガラス清掃が必要となっています。 また、大型ビジョンや大型スライドガラスといった特殊な設備の維持管理に一定の経費を要しています。							

取組の状況	
設置条例	八戸まちなか広場条例
運営方針等	第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針 一未来を創ろう 2030ー
取組の内容	1. 施設の特徴 八戸まちなか広場「マチニワ」は、まちなかの「庭」をコンセプトにした「光・緑・水・風」の自然を感じられる空間として平成30年に整備しました。正面にある「はっち」と連携して地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促すことを目的としており、日常的な居場所として、また、イベント開催時には「ハレ」の場として、自由な雰囲気をまちなかに提供しています。 自然を感じられる空間がコンセプトのため、空調設備を設けていないのがマチニワの大きな特徴です。 【利用状況】 マチニワ館内には、来館者が気軽にくつろげるように椅子やテーブルを各所に備えてあり、バス到着までのちょっとした待ち時間やお昼休憩、読書や学生の勉強、談笑等のコミュニティスペースとして日常的に使用されています。また、マチニワ中央には、八戸青年会議所の「海の樹構想」をモチーフとしたシンボルオブジェ「水の樹」と、それを取り囲むように設置された噴水やミスト装置があり、これらから定期的に水が出るようになっています。夏になると老若男女を問わず、水の樹や噴水装置等から涼をとる姿が見られます。 イベント開催時には、大型ビジョンに映像を投影しながらステージでパフォーマンスが行われたり、広場の一角で物品販売が行われたりする等、様々な属性の個人や団体による多種多様な活動が日常的に繰り広げられています。  ←シンボルオブジェ「水の樹」 八戸青年会議所の「海の樹構想」をモチーフにアートディレクターの森本千絵さんが監修。 ホッピングウォーター(噴水)→ 夏になると涼を求める親子連れの来館者が多く見られる。 

○施設の利用状況の推移

	利用件数	月平均
令和4年度	273件	23件
令和5年度	381件	32件
令和6年度	376件	32件

○マチニワイベント支援事業実施状況

	実施件数	延来場者数
令和4年度	26件	11,142人
令和5年度	12件	5,700人
令和6年度	19件	9,300人

※各年度毎に、減免条件は異なる

2. 主な事業(令和6年度)

(1)マチニワ京舞披露

さくら野百貨店八戸店との連携企画。大京都展の開催に合わせ、舞妓さんによる京舞披露をマチニワのステージで2日間にわたって開催しました。

(2)ダンボール迷路&積み木であそぼ！

ダンボール迷路と積み木3,000ピース、人工芝生を設置し、誰でも気軽に立ち寄り遊べる空間を提供しました。

(3)マチニワ アンブレラスカイ

梅雨の時期を楽しく過ごしてもらえるよう、カラフルな傘をマチニワの天井に展示しました。

(4)マチニワ大道芸

全国で活躍する大道芸パフォーマーの技を鑑賞できる機会として東北では数少ない大道芸フェスティバルを2日間にわたって開催しました。

(5)大型ビジョンで季節の合唱・合奏を発表しよう！

市内の保育園・幼稚園から大学のサークル等による季節の合唱や合奏動画を募集し、大型ビジョンで放映しました。

(6)マチニワピアノ

令和元年より、だれでも自由に弾くことができるストリートピアノをマチニワ2階に設置しています。

(7)マチニワバルーンデコレーション

クリスマスに合わせて館内にバルーンデコレーションを設置し、水の樹と共に「映える」空間を演出しています。

(8)マチニワイベント支援事業

マチニワを会場とした飲食・物販等のイベントを開催する際の使用料を免除することで、地域を活性化する事業。令和6年度は19のイベントを支援しました。

(9)マチニワえんぶり公演

はっちお祭り連携事業のひとつとして、マチニワでえんぶり公演を行っています。

マチニワ京舞披露(1)



マチニワ アンブレラスカイ(3)



マチニワ大道芸(4)



マチニワ えんぶり公演(9)



マチニワ クリスマスバルーンデコレーション(7)



3. 維持管理費と財源の見通しについて(はっち・マチニワ)

○過去3年度における施設運営費の平均

(単位：千円)

	はっち	マチニワ	合計
支出	人に係る経費	127,803	127,803
	企画運営費	27,016	29,272
	施設の維持管理費	45,051	187,319
	うち、光熱水費	4,880	36,840
	うち、委託料	37,694	127,503
	合計	297,087	344,394
収入 (財源)	使用料	1,167	17,136
	その他	－	9,356
	一般財源	46,140	317,902
	合計	47,307	344,394

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

はっち・マチニワ共に、施設の貸出しを行うことを前提としているため、貸館受付に必要なシステム経費を要しています。マチニワについては、シンボルオブジェである水の樹や、噴水・ミスト放出を行う水景システム、大型ビジョンや大型スライドガラスといった特殊な設備の維持管理に一定の経費を要しています。また、建物がガラス張りであることや開館時間が他の公共施設よりも長いことから清掃や警備に要する費用も一定程度必要となっています。

現在は、竣工から7年が経過し、水景システムやトイレ等の水回りに一定の補修費用を要していますが、今後はこれらに加えて、水の樹や大型スライドガラス、大型映像装置や音響設備といった特殊設備に補修費用を要することが見込まれます。

②維持管理費削減の取組

はっち職員がはっちとマチニワを一体で維持管理を行うほか、維持管理委託の仕様を見直すことで経費の削減を図っています。今後も引き続き、効果的かつ効率的な施設運営に努めます。

(2)財源の見通しについて

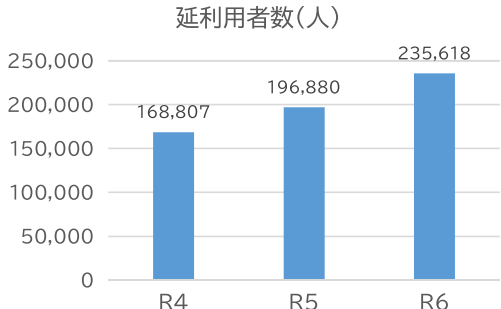
施設を占有しての利用については、はっち、マチニワを併せて年間の申請件数は2,500～3,000件程度、利用件数は年間3,000～4,000件となっており、公共利用などの減免利用を除き、受益者負担として施設使用料を徴収しています。多くの場合、これらの利用は無料あるいは有料な場合も低廉な料金で、誰もが参加や利用ができ、一般財源を活用し施設使用料の水準を抑えることで、利用申請者のみならず参加者を含めて幅広く市民等による利用や活動につながっています。これまで同様、施設の利用促進と収入の確保に努めていきます。

また、貸館利用に留まらず、市民活動やまちづくりのニーズを掘り起こし、文化や観光、まちづくりに関する市民参加型の企画事業に取り組むためのスタッフや事業に係る費用、更には誰もが気軽に安心して利用できる公共的な居場所としての機能を維持するための費用に一般財源を充てていますが、引き続き建物貸付収入や、企画に連動した補助金等その他の財源確保にも努めていきます。

基本情報

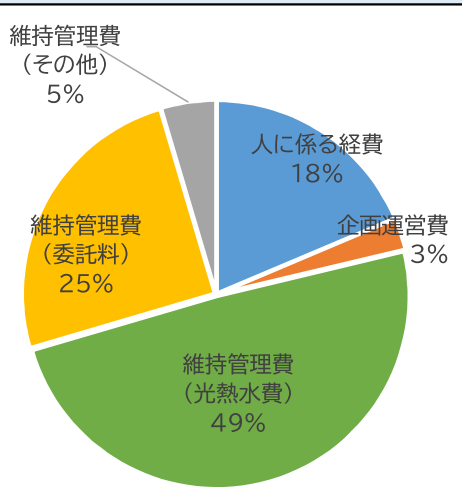
施設名称	長根屋内スケート場	
所在地	八戸市大字売市字奥遊下3	
所管部署	長根屋内スケート場	
設置の目的	スピードスケート競技を中心としたスポーツの普及振興及び市民の健康の維持増進を図るための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

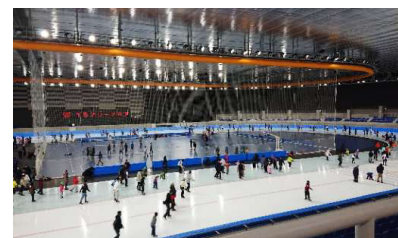
土地	土地面積	62,274.83			m ²	所有状況	市有地													
	用途地域	第二種中高層住居専用地域																		
建物	建物名称	長根屋内スケート場																		
	建築年月日	令和元年7月2日																		
	延床面積	26,274.00			m ²	構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造	階数	地上	3	地下	1								
	整備費用	12,506,593			千円	財産区分	行政財産													
	耐震診断	不要				診断結果	－													
運営	開館時間	9:00～21:00					延利用者数(人)  <table><thead><tr><th>区分</th><th>延利用者数(人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>R4</td><td>168,807</td></tr><tr><td>R5</td><td>196,880</td></tr><tr><td>R6</td><td>235,618</td></tr></tbody></table>						区分	延利用者数(人)	R4	168,807	R5	196,880	R6	235,618
	区分	延利用者数(人)																		
	R4	168,807																		
	R5	196,880																		
R6	235,618																			
休館日	毎週月曜日、12/31、1/1																			
開館日数(日)	R4	301	R5	314	R6	309														
運営形態	直営																			
利用	主な利用者	市民(全市的)		市内競技者		全国からの競技者														
	延利用者数(人)	R4	168,807	R5	196,880	R6	235,618													
	1日当たり利用者数(人)	R4	561	R5	627	R6	763													
	利用料金	入館料	無料 ※スケートリンク滑走料 一般700円、高校生430円、中学生300円、小学生以下180円				貸館利用料	八戸市屋内スケートリンク条例による												

※利用料金の詳細については施設ホームページに掲載。

駐車場の有無				職員数(人)	
駐車場の有無	有	自動車	600	正職員	会計年度任用職員
利用時間	9:00～21:00	原付・バイク	－		
入出庫時間	6:30～21:30	自転車	－	9	3
バリアフリーの状況				自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
○	○	○	○	○	－
災害指定避難					
指定緊急避難場所					蔵書数 (冊)
				指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災		
－	－	－	－	－	－

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	74,871		74,247		78,174	
	企画運営費	1,874	6%	26,735	1%	11,070	5%
	施設の維持管理費	358,357	76%	306,356	96%	334,416	95%
	うち、光熱水費	248,448		187,147		206,180	
	うち、委託料	99,545	100%	101,514	100%	104,753	100%
	合計	435,102		407,338		423,660	
収入 (財源)	使用料	28,065		30,182		31,005	
	その他	72,520		64,107		64,086	
	一般財源	334,517		313,049		328,569	
	合計	435,102		407,338		423,660	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 ・施設運営や管理に7人、企画運営業務に4人のスタッフが従事しています。本庁と比較すると1日の開館時間が長く、また休館日も少ないことからシフト制とし、年間3,000件を超える施設利用の使用許可事務等に対応するための人員を配置しています。 2. 企画運営費 ・スケートリンク運営のほか、中地(人工芝・多目的コート)や会議室等の貸館業務を主とした施設運営を行っています。 ・企画運営費は、スケート教室開催に係る経費や、スケート競技会の運営経費に対する補助、国内最高記録等を記録した選手への報奨金などです。 3. 施設の維持管理費 ・良質な氷とアリーナ内の空調環境を維持するためには、24時間の空調運転及び温湿度管理が必要であるため、電気・ガス使用に係る光熱水費が多くなっています。 4. その他 ・その他収入の主なものは施設命名権(ネーミングライツ)収入、屋内広告看板掲載料収入などです。							

取組の状況	
設置条例	八戸市屋内スケートリンク条例
運営方針等	スケートスポーツの振興と興行開催を両立させるバランスの取れた運営を目指す
取組の内容	「氷都」を標榜する当市は古くからスケートが盛んな地域であり、多くの市民が屋外スケート場でスケートに親しんできたところですが、施設の老朽化が著しいことから、青森県に対し平成9年度より県立屋内スケート場の整備を要望、平成25年の建設に係る合意を得て、令和元年6月に市立の施設として完成、同年9月より供用を開始しました。 中心市街地に立地する好条件を活かし、多目的な利用を通じた交流人口の拡大や中心市街地の賑わい創出を目指しています。 1. 施設の特徴 (1) 国内3か所目のスピードスケート競技の国際大会開催が可能な屋内スケート場 ・世界水準の氷質(最新の液化CO2冷媒による均質な氷) ・空調環境(屋根からの輻射熱の遮断) ・照明環境(全館LED照明による省エネルギー化) (2) 施設の多目的利用 ・中地 バスケットボールやバレーボールができる「多目的コート」 - サッカーやフットサルができる「人工芝コート」 ・アリーナ 大規模イベント時には、1階アリーナに6,000人、2階スタンドに3,000人の計9,000人を収容可能 ・会議室 大小様々な大きさの会議室を貸出し ・ホワイエ、交流サロン どなたでも無料で使用が可能



スケートリンクでは一般滑走、中地では球技が行われるなど、多目的な活用が可能

(3) 利用者数

	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
スケートリンク	33,988人	32,595人	42,638人	45,089人	44,525人
中地（多目的・人工芝）	15,931人	18,935人	25,322人	25,891人	40,761人
会議室	10,132人	11,714人	15,205人	21,302人	23,259人
トレーニング室	3,708人	3,492人	2,920人	5,205人	8,756人
その他（観覧者等）	67,242人	62,950人	82,722人	99,393人	118,317人
計	131,001人	129,686人	168,807人	196,880人	235,618人
1日当たり	482人	571人	561人	627人	763人

(4) 年間スケジュール



(5) 災害時における地域防災拠点施設、広域的な防災拠点

- ・一時的な避難者の受入れ
- ・消防や警察、自衛隊などの防災関係機関の活動拠点
- ・救援物資の集積場所
- ・防災備蓄倉庫



災害時には地域防災拠点施設として活用

2. 主な事業

(1) 国際大会誘致事業

（公財）日本スケート連盟、青森県スケート連盟等と連携し、国際大会誘致を進めています。

（国際大会開催実績）

- ・2024 ジュニアワールドカップスピードスケート競技会（令和6年2月3日～4日）
- ・2024 ISU 世界ジュニアスピードスケート選手権大会（令和6年2月9日～11日）
- ・2025 ISU 四大陸スピードスケート選手権大会（令和6年11月15日～17日）

(2) スピードスケート合宿誘致事業

「八戸市スポーツ推進計画」に基づき、スピードスケート合宿誘致を進めています。

（取組内容）

- ・スピードスケート競技部を置く企業、大学及び高等学校のほか、各都道府県のスケート連盟へ合宿案内の送付
- ・市ホームページにおいて合宿情報の提供
- ・より利用しやすい滑走時間やトレーニング時間の設定、自転車練習モデルコースの提案
- ・八戸スポーツコミッションによる八戸市スポーツ合宿補助金の交付

（合宿者数）

	令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
年間延べ合宿者数	7,569人	12,068人	13,565人	17,600人	18,293人
うち夏季延べ合宿者数 （7月下旬～9月）	2,526人	5,806人	5,432人	7,728人	9,891人

(3) イベント誘致事業

スケートリンク解氷期（3月下旬～6月中旬）において、ライブエンターテインメントや展示商談会、コンベンションなどの各種イベント会場としての利活用を図ります。

(4) 経済波及効果

各種競技大会やイベントの主なもの及びスピードスケート合宿の受入に係る効果を測定するため、青森県作成の「産業連関表による波及分析シート」を用いて、経済波及効果を算出しています。

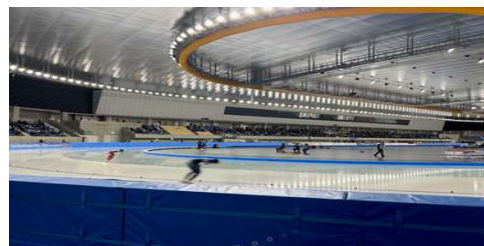
(経済効果)

年度		来場者数	経済効果額	
令和2年度	スピードスケート合宿	7,569人	約1.1億円	
令和3年度	お笑い芸人EXIT 地域活性化ライブ	(主催者非公表)	約0.2億円	約2.2億円
	スピードスケート合宿	12,068人	約2.0億円	
令和4年度	全日本スピードスケート選手権大会	2,000人	約0.1億円	約4.3億円
	特別国民体育大会冬季大会スケート競技会	10,579人	約2.0億円	
	スピードスケート合宿	13,565人	約2.2億円	
令和5年度	ジュニアワールドカップスピードスケート競技大会	14,360人	約2.8億円	約5.4億円
	世界ジュニアスピードスケート選手権大会			
	スピードスケート合宿	17,600人	約2.6億円	
令和6年度	四大陸スピードスケート選手権大会	7,267人	約1.6億円	約4.5億円
	全日本スピードスケート選手権大会	5,117人	約0.3億円	
	スピードスケート合宿	18,293人	約2.6億円	

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	75,764
	企画運営費	13,226
	施設の維持管理費	333,043
	うち、光熱水費	213,925
	うち、委託料	101,937
	合計	422,033
収入(財源)	使用料	29,751
	その他	66,904
	一般財源	325,378
	合計	422,033



令和6年11月15～17日開催
四大陸スピードスケート選手権大会

(1) 維持管理費について

① 施設維持管理の状況

7月下旬から3月上旬までのスピードスケートシーズン中、良質な氷の状態を維持するためには、リンク面の温度管理のほか空調管理を24時間行う必要があるため、一定の維持管理費を要するものです。

② 維持管理費削減の取組

施設を維持するために要する経費を抑えるため、全館LED照明を導入し消費電力の低減を図っているほか、施設運営に支障のない範囲において冷凍機や空調機の運転調整、更には館内や駐車場照明の間引き点灯等を行うなど、効果的かつ効率的な運用に取り組んでいますが、今後も工夫を重ねて経費の節減に努めていきます。

(2) 財源の見通しについて

① 収入の状況

施設を占有して利用する利用者からは受益者負担として施設使用料を徴収する一方、一般財源を活用し施設使用料の水準を抑えることで幅広い利用を促すとともに、『氷都八戸』の中核施設としてスピードスケート競技を中心としたスポーツの普及振興や市民の健康増進、更には市外からの競技者の合宿誘致や競技会の誘致等による地域経済への波及効果につながっています。

また、その他の財源として、施設命名権（ネーミングライツ）収入や屋内広告看板掲載料収入、解氷期におけるイベント、コンベンション等の誘致に取り組み、財源確保に努めていきます。

② 収入増に向けた取組

ア ネーミングライツの導入

ネーミングライツ（施設命名権）を活用し、自主財源を確保しながら、施設の良好な維持管理を図るものです。

- ・ 契約相手 株式会社吉田産業
- ・ 契約期間 令和5年10月1日～令和10年9月30日（5年間：第2期目）
- ・ 契約金額 年間22,000,000円（税込）

イ 屋内広告看板の導入

アリーナ内に民間企業等の看板広告（有料）を掲出することで、自主財源を確保しながら、施設の良好な維持管理を図るものです。

広告掲出企業は、令和4年度に1社、令和5年度に1社増え9社となっています。

年間 1,100,000円（税込）3社	年間 550,000円（税込）5社	年間 880,000円（税込）1社
プライフーズ株式会社	清水建設株式会社	東京鉄鋼八戸工場
エプソンアトミックス株式会社	YKK AP株式会社	
デーリー東北新聞社	三浦建設工業株式会社	
	青い森信用金庫	
	株式会社サンデー	

見える化シート

基準日

令和7年3月31日現在

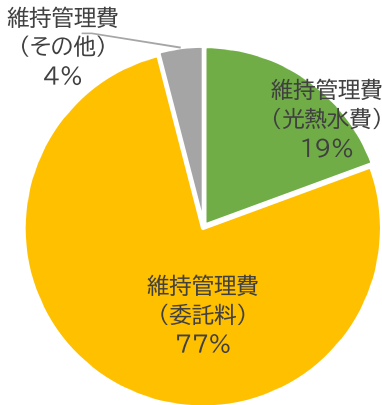
基本情報

施設名称	八戸市総合保健センター	
所在地	八戸市田向三丁目6番1号	
所管部署	保健総務課	
設置の目的	保健、医療、福祉及び教育に関する市民の自主的な活動の場を提供することにより、市民が生涯を通じて心身ともに健康で、生きがいをもち、生活を営むことができる地域社会を形成するための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	26,128.36	m ²	所有状況	市有地						
	用途地域	第一種住居地域									
建物	建物名称	八戸市総合保健センター									
	建築年月日	令和2年4月30日									
	延床面積	11,093.03	m ²	構造	鉄骨造	階数	地上	4	地下	－	
	整備費用	6,803,599	千円	財産区分	行政財産						
	耐震診断	不要			診断結果	－					
運営	開館時間	9:00～22:00									
	休館日	年末年始(12/29～1/3)									
	開館日数(日)	R4	359	R5	359	R6	359				
	運営形態	直営									
利用	主な利用者	市民(全市的)		近隣自治体住民		職員					
	延利用者数(人)	R4 利用者数の把握ができないため、									
	1日当たり利用者数(人)	R4 空欄としています。									
	利用料金	入館料					貸館利用料				

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	有	自動車	193	正職員	会計年度任用職員	
利用時間	7:00～24:00	原付・バイク	有			
入出庫時間	7:00～24:00	自転車	有	125	98	
バリアフリーの状況				自家発電設備等		
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備	
○	－	○	○	○	太陽光発電(22kW)	
災害指定避難					蔵書数 (冊)	
指定緊急避難場所				指定避難所		
洪水	土砂	地震	大規模な 火災			火山
－	－	－	－	－		－

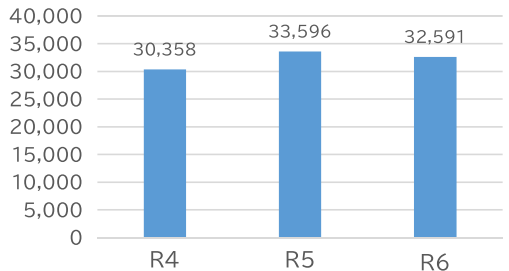
施設運営費の状況								(単位:千円)
		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率	
支出	人に係る経費	—		—		—		
	企画運営費	—	—	—	—	—	—	
	施設の維持管理費	149,741	100%	181,105	100%	179,733	100%	
	うち、光熱水費	36,063		35,905		34,875		
	うち、委託料	105,565	100%	136,705	100%	137,595	100%	
	合計	149,741		181,105		179,733		
収入 (財源)	使用料	3,496		2,858		2,829		
	その他	14,307		13,920		14,394		
	一般財源	131,938		164,327		162,510		
	合計	149,741		181,105		179,733		
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)				
1.施設の維持管理費(光熱水費・委託料) 一般的な施設維持管理委託料(清掃、警備等)及び休日夜間急病診療所指定管理料、館内で使用する光熱水費(貸館時含む)などに一定の経費を要しています。 ※貸館は9時から22時、年間で貸館を行わない日は年末年始の6日間のみで、市公共施設の中では日単位及び年単位で貸館時間最長の施設です。 2.施設の維持管理費(その他) 施設の修繕料、通信運搬費及び物品購入費等に一定の経費を要しています。 3.収入 その他収入の主なものは、建物貸付収入(事務室、自動販売機等)、土地使用料(駐車場賃貸料、土地賃貸料)等です。				 維持管理費 (その他) 4% 維持管理費 (光熱水費) 19% 維持管理費 (委託料) 77%				

取組の状況																				
設置条例	八戸市総合保健センター条例																			
運営方針等	保健、医療、福祉及び教育に関する市民の自主的な活動の場を提供することにより、市民が生涯を通じて心身ともに健康で、生きがいを持って生活を営むことができる地域社会の形成に資するよう、適切な維持管理を行います。																			
取組の内容	1.維持管理費と財源の見通しについて ○過去3年度における施設運営費の平均 (単位:千円) <table> <tr> <td rowspan="4">支出</td><td>施設の維持管理費</td><td>170,193</td></tr> <tr> <td> うち、光熱水費</td><td>35,614</td></tr> <tr> <td> うち、委託料</td><td>126,622</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>170,193</td></tr> <tr> <td rowspan="4">収入 (財源)</td><td>使用料</td><td>3,061</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>14,207</td></tr> <tr> <td>一般財源</td><td>152,925</td></tr> <tr> <td>合計</td><td>170,193</td></tr> </table> (1)維持管理費について ①施設維持管理の状況 施設性能や機能を良好な状態に保つほか、社会・経済的に必要とされる性能・機能を確保のため、必要最低限の維持管理費で運営しています。 ②維持管理費削減の取組 維持管理費削減に取り組むとともに、安全の確保、業務継続の可否、管理運営の効率化、施設の長寿命化、ユニバーサルデザイン並びに省エネルギー化などの社会的要求水準の確保に努めます。 (2)財源の見通しについて 施設使用料のほか市税や地方交付税などの一般財源を基本に、その他収入として建物貸付収入、土地使用料を引き続き確保するとともに、新しい財源の確保に努めていきます。		支出	施設の維持管理費	170,193	うち、光熱水費	35,614	うち、委託料	126,622	合計	170,193	収入 (財源)	使用料	3,061	その他	14,207	一般財源	152,925	合計	170,193
支出	施設の維持管理費	170,193																		
	うち、光熱水費	35,614																		
	うち、委託料	126,622																		
	合計	170,193																		
収入 (財源)	使用料	3,061																		
	その他	14,207																		
	一般財源	152,925																		
	合計	170,193																		

基本情報

施設名称	埋蔵文化財センター是川縄文館	
所在地	八戸市大字是川字横山1	
所管部署	是川縄文館	
設置の目的	埋蔵文化財の調査、研究及び保存を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与するための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	13,752.55				m ²	所有状況	市有地								
	用途地域	市街化調整区域														
建物	建物名称	埋蔵文化財センター是川縄文館														
	建築年月日	平成22年3月25日														
	延床面積	4,715.53				m ²	構造	鉄骨鉄筋コンクリート	階数	地上	2	地下	－			
	整備費用	2,242,439				千円	財産区分	行政財産								
	耐震診断	不要					診断結果	－								
運営	開館時間	9:00～17:00						延利用者数(人) 								
	休館日	月曜日(祝日等の場合はその翌日)、年末年始														
	開館日数(日)	R4	313		R5	312								R6	311	
	運営形態	直営														
利用	主な利用者	市民(全市的)			観光客			－								
	延利用者数(人)	R4	30,358		R5	33,596		R6	32,591							
	1日当たり利用者数(人)	R4	97		R5	108		R6	105							
	利用料金	入館料	一般250円、高校・大学生150円、小・中学生50円 (特別展開催期間は特別料金)					貸館利用料								

※令和5年4月1日から中学生以下無料。市内在住の65歳以上の方、障害者手帳等をお持ちの方と同伴者1名は半額。
(利用料金の詳細については施設ホームページに掲載)

駐車場の有無				職員数(人)		
駐車場の有無	有	自動車	95	正職員	会計年度任用職員	
利用時間	9:00～17:00	原付・バイク	－			
入出庫時間	9:00～17:00	自転車	有	15	8	
バリアフリーの状況				自家発電設備等		
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備	
○	○	○	○	－	－	
災害指定避難					蔵書数 (冊)	
指定緊急避難場所				指定避難所		
洪水	土砂	地震	大規模な 火災			火山
－	－	－	－			－

施設運営費の状況				(単位:千円)			
		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
			地元 発注率		地元 発注率		地元 発注率
支出	人に係る経費	117,886		118,404		130,751	
	企画運営費	29,286	88%	27,230	90%	36,939	86%
	施設の維持管理費	89,952	94%	94,295	93%	97,282	92%
	うち、光熱水費	22,628		23,456		19,283	
	うち、委託料	51,505	100%	54,366	100%	65,768	92%
	合計	237,124		239,929		264,972	
収入 (財源)	使用料	4,761		5,161		4,721	
	その他	1,680		2,029		2,116	
	一般財源	230,683		232,739		258,135	
	合計	237,124		239,929		264,972	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 展示や各種講座など教育普及事業や史跡整備、世界遺産の保全活用、施設運営及び管理に15人、埋蔵文化財の発掘調査及び収蔵品整理に8人の職員が従事しています。休館日は週1回で土日祝日勤務もあることから、シフト制により、施設の運営に必要な職員が確保できる体制をとっています。 2. 企画運営費 企画展示のほか各種講座の開催、体験学習の実施などの教育普及や、公共交通手段であるバス運行負担金、世界遺産登録PR等、是川遺跡の価値を発信するための経費です。 3. 施設の維持管理費 光熱水費の大部分は、収蔵する文化財を適切な環境で保存管理するために必要な空調設備の運用に係る電気使用料です。委託料は、設備の保守点検や植栽の手入れ等の施設管理業務のほか、受付や有人警備、展示物の解説等の業務に係る経費です。 4. その他 その他収入の主なものは図録やグッズの売上収入と建物貸付収入です。				維持管理費(その他) 5% 維持管理費(委託料) 25% 人に係る経費 49% 維持管理費(光熱水費) 7% 企画運営費 14%			

取組の状況	
設置条例	八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館条例
運営方針等	是川遺跡や風張1遺跡などを通して、東北地方の優れた縄文文化を発信します。 市内の埋蔵文化財の調査・研究及び出土文化財の整理・収蔵を行うとともに、調査記録等の積極的な公開活用と適切な保存管理を図ります。
取組の内容	

1. 施設の特徴

開館からこれまでに、常設展示と企画展示や講座・体験学習などの教育普及事業等を通じて約39万人が来館しました。また、文化財保護法に基づき、開発によって失われる遺跡の発掘調査や報告書刊行を確実に進め、八戸の歴史を紐解く貴重な情報を蓄積することができました。調査研究では、金沢大学との共同研究を行い、是川遺跡の藍胎漆器が、高度なかご作りと漆工、自然利用といった技術知の結晶であることを、非破壊分析と復元研究により明らかにしました。



2. 事業概要

令和6年度実績：是川縄文館「年報」第14号より(https://www.korekawa-jomon.jp/information_kankobutsu/)

(1) 企画展示の実施

企画展示名	観覧者数	会期(日数)	備考
是川遺跡の土製品	2,806	R6.4/1～R6.5/6(33日)	
縄文の編み／組みの探究	7,860	R6.7/13～9/8(57日)	
合掌土偶ができたころ	5,053	R6.10/5～11/24(44日)	
是川遺跡の石器・石製品	2,885	R6.12/14～R7.3/23(76日)	

(2) 講座等イベントの実施

イベント名	参加者数	開催回数等	備考
考古学講座	291	6回(前期3・後期3)	外部講師による講演
これかわ考古学クラブ	21	6回	小中学生向けの体験講座
企画展示ギャラリートーク	196	17回(特別展9・企画展8)	当館学芸員による展示解説
企画展考古学講座	133	2回(特別展1・企画展1)	外部講師による企画展に関連した講演
サポートスタッフ研修会	225	12回(前期6・後期6)	展示解説・体験学習指導の研修会
縄文の布を編む講座	16	R6.9/7開催	当館学芸員等による解説・制作指導
縄文土器作り講座	延べ41	2回(素地土作り, 成形)	当館学芸員等による制作指導
日曜日縄文体験コーナー	702	42回	火起こし, 勾玉作り等
土曜日体験教室	99	5回	縄文クッキング, 土偶作り等
学芸員講座(館内)	387	10回	当館学芸員等による講話(館内)
学芸員講座(館外)	924	9回	当館学芸員等による講話(館外)
ボランティアによる体験学習指導	1,988	66回	団体来館者への勾玉・土器作り等の指導
遺跡調査報告会	60	R6.11/9開催	館内開催
これかわ縄文まつり	800	R6.8/18開催	縄文体験, ステージ企画, 抽選会等
是川縄文の日	758	R6.11/3開催	遺跡ツアー, 縄文体験, クイズ, 出土品展示等
第9回は川縄文の里俳句大会	46	R6.11/24表彰式	応募数409
えんぶり鑑賞会	267	R7.2/23開催	妻神えんぶり組による摺り披露

(3) 学校見学等の受入れ

イベント名	学校	人数	備考
見学・体験	25	1,143	市内:1,143人／市外:402人 ※市外は学校数不明
修学旅行	1	11	
はっふる隊	9	468	八戸圏域広域的体験学習支援事業

(4) 常設展示の実施

- ・展示点数 546(うち国宝1・重要文化財443)
- ・展示替え(漆製品・木製品など)
- ・最新研究報告(第8回「新田城跡の発掘調査」)
- ・保守点検(業務委託)

(5) 史跡是川石器時代遺跡に関する取組

① 史跡整備に関する取組

是川石器時代遺跡の発掘調査及び研究成果を基に、八戸の縄文文化の魅力を伝え、生涯学習・観光・まちづくりの拠点や憩いの場として「是川縄文の里」を整備する事業です。H27に保存活用計画、H29に第1期整備基本計画を策定し、R1に第1期整備基本設計を行いました。第1期整備は、縄文時代晩期の中居遺跡を対象としています。同遺跡はR3に世界遺産となりました。

- ・史跡用地取得(R6年度末の進捗率:約90%)
- ・維持管理(除草・清掃等)
- ・クリーンデー(市民参加・1回開催)
- ・第1期整備(中居遺跡南工区の地形造成)
- ・「史跡是川石器時代遺跡第1期整備基本計画追補」の策定



常設展示室



整備イメージ

②世界遺産に関する取組

- 世界遺産一覧表記載(登録)決定 R3.7/27
- 世界遺産登録PR事業
 - ・世界遺産登録記念サイン掲出(バナーフラッグ・広告塔・看板・のぼり)
 - ・世界遺産是川石器時代遺跡パンフレット配布
 - ・世界遺産登録PRラッピングバス(R3.12～市営バス1台)
 - ・社会科副読本「世界遺産になった是川石器時代遺跡」の制作・配布(小学校6学年全生徒に配布・PDF公開)
 - ・北海道・北東北の縄文遺跡群パネル展示
 - ・JR北海道車内誌広告掲載
 - ・JR東日本品川駅・東京駅・上野駅・JR東海名古屋駅・新大阪駅構内デジタルサイネージ広告
- 世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の保存管理
 - ・経過観察の実施(年次報告書データ提出)
 - ・遺産影響評価の実施(史跡整備関係)



デジタルサイネージ広告(名古屋駅)

(6)資料の収蔵管理・保存修理など

是川縄文館では、八戸市内の遺跡から発掘調査等によって出土した遺物や写真・図面などの調査記録、関連図書の収集・収蔵・再整理・データベース化・保管を実施しています。令和6年度は出土品83箱1,190点、図書1,379冊のデータ登録のほか、発掘調査報告書、研究紀要、資料目録のWEB公開を実施しました。

①収蔵管理

名称	数	備考
国宝 青森県風張1遺跡出土 土偶	1点	
重要文化財 青森県風張1遺跡出土品	663点	附 炭化米2点
重要文化財 青森県是川遺跡出土品	963点	
八戸市内 遺跡出土遺物	3,000箱	H11年度以降の出土品、風張・是川遺跡出土品を収蔵
図書	60,637冊	

②保存修理

名称	数	備考
是川遺跡美術工芸品保存修理事業	6点	漆製品の保存修理業務委託

③利用状況

種別	件数	資料数	備考
画像資料貸出・利用	102	193	書籍掲載・テレビ番組利用など
JOMON ARCHIVES	13	—	縄文遺跡群共同ホームページからの利用申請
実物資料貸出	4	83	八戸市博物館・三内丸山遺跡センター等

(7)広報・情報発信

種別	回数等	備考
是川縄文館ホームページ更新	72	閲覧数145,648
広報はちのへ掲載	12	イベントあらかると12回・連載3回・特集2回
新聞記事	6	特別展3回,企画展3回
新聞広告掲載	12	特別展6回,企画展6回
BeFM「施設ガイド」	6	ラジオ番組に隔月で出演
図録等刊行	6	埋蔵文化財ニュース,企画展示図録,研究紀要,年報,社会科副読本

(8)埋蔵文化財に関する取組

八戸市内491箇所の遺跡内にて、開発行為がある場合、文化財保護法に基づき、現地確認・試掘調査・工事立合を行い、遺跡が破壊される場合は発掘調査を実施し、記録保存を行っています。令和6年度は16遺跡29件3,809㎡の発掘調査を実施し、2冊の報告書を刊行しました。また、埋蔵文化財ニュースを発行・配布しました。



発掘作業(松ヶ崎遺跡)

書名	備考
第187集「八戸北インター第2工業団地開発区域内埋蔵文化財発掘調査報告書」	R6.10/11発行
第188集「八戸城跡XI」	R7.1/31発行

(9)研究活動の実施

【研究】

①研究紀要第14号の刊行、②論文発表等9件、③講話等11件、④他機関への指導・協力2件

【共同研究】

○第4期共同研究「編組技法からみた縄文時代の技術知の解明」

金沢大学と共同し、中居遺跡の藍胎漆器や繊維・編組製品の分析による、素材・製作技法の解明を目的として、3カ年計画で実施します。令和6年度は、研究成果を特別展「縄文の編み／組みの探究」で公開するとともに講座・体験講座を開催しました。また、一戸町山井遺跡出土藍胎漆器の構造解析により、縄文時代にかごが修復されていたことを初めて明らかにすることができました。また、第4期共同研究の成果をまとめた論文を、研究紀要第14号に掲載しました。

(10)連携事業の実施

団体名	内容
放送大学	R6.11/16-17 是川遺跡・是川縄文館での面接授業の講師
千葉学園高等学校	「[縄文にときめく]〜オリジナルグッズでもっと縄文が好きになる〜」事業への協力 ※八戸圏域高等学校地域活動促進事業助成金活用事業 (縄文グッズの制作・販売や、制作体験イベント開催に係る助言・会場提供)
北緯40° ナニヤトヤラ連邦会議 漆産業振興専門部会	R6.10/13 「浄法寺漆× 是川縄文〜縄文時代と現代を繋ぐ漆〜」への協力 (漆掻き実演、制作体験の会場提供)
是川小学校	縄文時代の衣食住をテーマにした調べ学習活動への協力



「是川縄文の日」での縄文グッズ販売



放送大学

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	122,347
	企画運営費	31,152
	施設の維持管理費	93,843
	うち、光熱水費	21,789
	うち、委託料	57,213
	合計	247,342
収入 (財源)	使用料	4,881
	その他	1,942
	一般財源	240,519
	合計	247,342

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

是川縄文館は、重要文化財等を多数収蔵しており、特に収蔵庫は空調設備を24時間稼働させ、適切に温湿度管理をしなければならず、一定の維持管理費を要しています。

光熱水費の約95%を占める電気使用料の削減のためには、照明設備のLED化や高効率の空調設備の導入などの抜本的な対策が必要となっています。

また、建設から15年が経過し、耐用年数を迎える設備も増えており、修繕料や更新費用は年々上昇しています。

②維持管理費削減の取組

令和6年度から10年度までの5箇年計画で、照明設備のLED化工事を行います。

設備を適切な状態で維持するとともに、コスト縮減や財政負担の平準化を図るため、令和2年度に策定した個別施設計画に基づき、設備の修繕や更新を計画的に進めます。

また、収蔵品の管理や来館者の観覧環境に支障のない範囲で、空調設備の設定温度の調節や公開エリア以外の間引き照明等を実施するとともに、雨水をトイレの洗浄水として利用するなど、光熱水費の削減に努めています。

(2)財源の見通しについて

市税や地方交付税などの一般財源を活用し料金水準を抑えることで幅広い利用を促すとともに、国宝・重要文化財の展示や世界遺産として、縄文文化を積極的に紹介することで来訪者を呼び、地域経済への波及効果の確保に努めています。

また、その他収入としてオリジナルグッズ販売収入等を引き続き確保するとともに、新しい財源の確保に努めていきます。

見える化シート

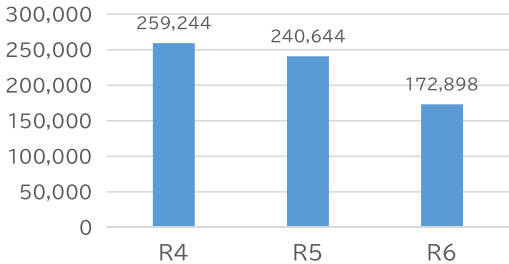
基準日

令和7年3月31日現在

基本情報

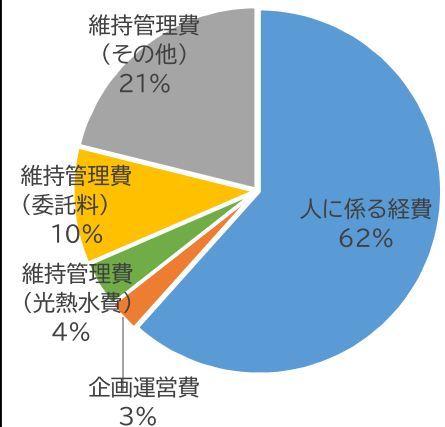
施設名称	図書館(本館)	
所在地	八戸市大字糠塚字下道2番地1	
所管部署	図書館	
設置の目的	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理保存して一般公衆の利用に供し、市民の自己教育、調査研究、レクリエーション等に資するための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	7,300.60			m ²	所有状況	市有地						
	用途地域	近隣商業地域											
建物	建物名称	図書館(本館)											
	建築年月日	昭和58年12月9日											
	延床面積	3,663.11			m ²	構造	鉄筋コンクリート	階数	地上	3	地下	－	
	整備費用	965,000			千円	財産区分	行政財産						
	耐震診断	不要				診断結果	－						
運営	開館時間	9:00～19:00（土日祝 9:00～17:00）					延利用者数(人) 						
	休館日	祝日の翌日、毎月月末、年末年始(12月28日～1月4日)、図書整理期間(年1回)											
	開館日数(日)	R4	330	R5	299	R6							209
	運営形態	直営											
利用	主な利用者	市民(全市的)		近隣自治体住民		研究者		貸館利用料 					
	延利用者数(人)	R4	259,244	R5	240,644	R6	172,898						
	1日当たり利用者数(人)	R4	786	R5	805	R6	827						
	利用料金	入館料	無料										

※本館は、冷房設備等更新工事のため、令和6年3月1日~8月7日は休館。

駐車場の有無					職員数(人)	
駐車場の有無	有		自動車	105	正職員	会計年度任用職員
利用時間	9:00～19:00		原付・バイク	有		
入出庫時間	9:00～19:00		自転車	有	14	18
バリアフリーの状況					自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ		障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
○	○		○	－	－	－
災害指定避難						蔵書数 (冊)
指定緊急避難場所					指定避難所	
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山		
－	－	－	－	－	－	

施設運営費の状況							(単位:千円)
		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	136,651		144,722		155,714	
	企画運営費	6,857	57%	9,614	43%	7,032	61%
	施設の維持管理費	72,690	91%	78,064	89%	87,385	90%
	うち、光熱水費	11,531		11,995		10,282	
	うち、委託料	20,864	100%	21,755	94%	23,723	83%
	合計	216,198		232,400		250,131	
収入 (財源)	使用料	334		306		216	
	その他	3,155		4,697		4,382	
	一般財源	212,709		227,397		245,533	
	合計	216,198		232,400		250,131	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 図書等資料の貸出・返却及びレファレンス対応などの図書館運営業務に32人の職員が従事しており、うちブックスタート事業やおはなし会などの企画運営業務に10人、古文書に関する企画運営業務に5人の職員が従事しています。1日の開館時間が本庁と比較し長く、また休館日も少ないことから、シフト制とし、施設運営に必要な職員を配置しています。 2. 企画運営費 展示、おはなし会及び講座など様々な企画を実施していますが、職員やボランティアが読み手や講師を務めることで経費が抑えられています。 (主にブックスタート事業費及び刊行書籍経費) 3. 施設の維持管理費(その他) 図書等購入費及び施設修繕費に当たり、一定の経費を要しています。 4. その他 その他収入の主なものは、図書等購入費寄付金や書籍売上収入、複写資料代収入です。				 人に係る経費 62% 維持管理費(その他) 21% 維持管理費(委託料) 10% 維持管理費(光熱水費) 4% 企画運営費 3%			

取組の状況	
設置条例	八戸市図書館条例
運営方針等	八戸市図書館運営方針
取組の内容	1. 施設の特徴 (1) 目指す将来像 「集まる つなぐ 広がる 楽しむ 育む 図書館」 (2) 基本理念 ○ 情報や書籍、イベント等を通じて人と人をつなぎ、歴史や文化を次世代につなぎ、知識が広がり、新たな興味が広がり、楽しみが広がる場として、本を読む楽しみを子どもたちに伝え、子どもたちの豊かな心を育み、学ぶ喜びを育みます。 ○ 今後、社会のデジタル化が進み、図書資料の概念が大きく変化していく中でも、古文書から電子化された情報まで多様な媒体を資料とし、情報を提供できる図書館を目指します。 ○ 図書館の多様な情報をもとに人々が自由に集い、情報と人、人と人とのつながりを生み出し、未来を担う子どもたちを育み、生涯にわたって活用され楽しめる、情報を介したプラットフォームのような図書館を目指します。 ○ 本や情報、多様なつながりや活動を通じて豊かな想像力や思考力を育み、図書館での活動や本のある暮らしが当たり前となる、文化の香り高いまちとなることを目指します。 (3) 基本方針 ① 本を読む楽しみを支える図書館 ② 誰もが利用できる図書館 ③ 生涯にわたる学びを支え、暮らしや地域の課題解決を支える図書館 ④ 郷土の歴史や文化を次世代へ継承する図書館

(4) 資料の貸出数・期間

- ・ 図書資料(図書・雑誌):1人8冊 15日以内
- ・ 視聴覚資料(CD) :1人2点 15日以内

(5) 蔵書数及び利用状況

	蔵書数(冊)			貸出数 (冊)	貸出者数 (人)
	図書資料	視聴覚資料	合計		
R4	449,935	5,251	455,186	658,291	141,419
R5	454,777	5,282	460,059	603,919	127,407
R6	460,055	5,294	465,349	452,025	101,123

※移動図書館及び6分室を含む

※本館は、冷房設備等更新工事のため、令和6年3月1日～8月7日は休館。

2. 主な事業

(1) テーマ展示の実施

0歳から大人までを対象にした多様な分野の図書をより探しやすいように、季節や時事など様々なテーマを設け図書の展示を実施しています。また、「市民大学講座」「男女共同参画基本計画」「いのちを支える八戸市自殺対策計画」の事業など、他部署と連携した展示も実施しています。

(2) ブックスタート事業の実施

ブックスタートは赤ちゃんと保護者が絵本を介して、ゆっくり心触れあうひとときを持つきっかけを作ることを目的に、乳児股関節脱臼検診の会場で検診終了後、ボランティアによる読み聞かせのほか、絵本1冊とおすすめ絵本リストや図書館の利用案内を入れたバッグを配布しており、生後90日から1歳未満を対象としています。

(3) リサイクルフェアの開催

図書館で除籍した図書や雑誌及び各家庭から受け付けた本を、リサイクルとして有効活用のため無料提供しています。(1人30冊まで)

(4) おはなし会の開催

未就学児や小学生を対象として、週2回(木・土曜日)の絵本の読み聞かせなどを開催しています。

(1) テーマ展示



(2) ブックスタート事業



(3) リサイクルフェア



(4) おはなし会



(5) 古文書の収集・整理・公開

八戸に関わる資料を収集し、県重宝や市文化財指定の資料など約79,000点の古文書、古記録、古写真、行政資料などの歴史資料を所蔵し、整理・保存・管理しているほか、古文書の解読を進め、重要な資料については書籍として刊行しています。

(6) 郷土資料の収集

- ①地方紙2紙(デーリー東北、東奥日報)の八戸市に関する記事をスクラップし内容ごとに整理しています。
- ②八戸にゆかりのある安藤昌益や当市出身で芥川賞作家の三浦哲郎氏のコーナーを設け、著書や資料を所蔵しています。

(7) 移動図書館における貸出

市内50か所を月1回巡回し、貸出を行っています。

(8) 分室の設置

公民館などに6分室を設置し、週1～2回貸出を行っています。(鮫・湊・是川・館・根城・上長)

(6) 安藤昌益資料



(6) 三浦哲郎資料



(7) 移動図書館車(ブックモバイル)



3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均 (単位：千円)

支出	人に係る経費	145,696
	企画運営費	7,834
	施設の維持管理費	79,380
	うち、光熱水費	11,269
	うち、委託料	22,114
	合計	232,910
収入 (財源)	使用料	285
	その他	4,078
	一般財源	228,546
	合計	232,910

(1)施設維持管理について

①施設維持管理の状況

昭和59年の設置から41年が経過し、施設、設備及び機器類の老朽化が進んでいることから、長寿命化を図り、館内の環境整備のため、設備更新等が必要となっており、今後、維持補修費が増える見込みとなっています。

また、遠山家日記(県重宝)や八戸藩日記(市文化財指定)を含む貴重な古文書など約79,000点を保管する古文書庫を有しており、古文書等歴史的な資産を適切に管理し、後世へ継承するため、古文書庫内は24時間通年で一定の空気環境を保つ必要があり、一定の維持管理費を要しています。

②維持管理費削減の取組

施設維持に要する経費を抑えるため、令和2年度にトイレ照明をLED化及び人感センサーに更新しました。また、令和5年度及び6年度には、館内照明のLED化や冷房設備等の更新を行いました。今後も、必要な修繕を行うなど、効率的な施設運営を図り、光熱水費の削減に努めていきます。

(2)財源の見通しについて

図書等資料は誰もが容易に利用できる市民の財産であるということから、市税や地方交付税などの一般財源を充てることを基本としながら、書籍売上収入や寄付金など、その他の収入の確保に努めていきます。

見える化シート

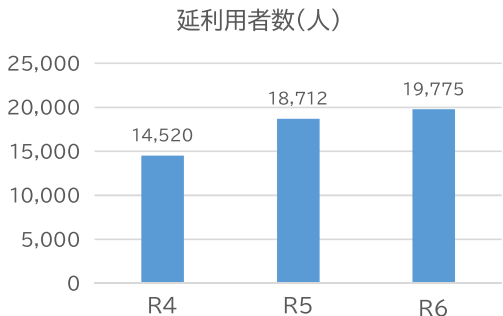
基準日

令和7年3月31日現在

基本情報

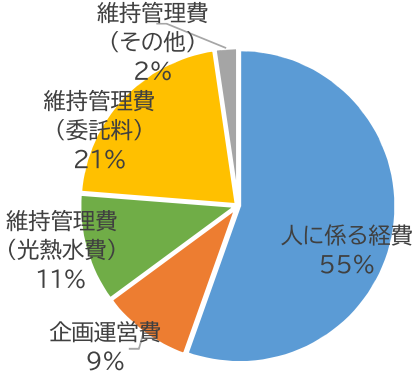
施設名称	博物館	
所在地	八戸市大字根城字東構35番地1	
所管部署	博物館	
設置の目的	教育、学術及び文化の発展に寄与するための拠点として設置するもの。	

管理・運営の概要

土地	土地面積	7,725.00			m ²	所有状況		市有地							
	用途地域	第一種中高層住居専用地域													
建物	建物名称	博物館													
	建築年月日	昭和57年9月30日													
	延床面積	3,767.49			m ²	構造		鉄筋コンクリート	階数	地上	2	地下	—		
	整備費用	1,501,252			千円	財産区分		行政財産							
	耐震診断	不要				診断結果		—							
	開館時間	9:00～17:00						延利用者数(人) 							
休館日	毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始														
開館日数(日)	R4	311		R5	318		R6							315	
運営形態	直営														
利用	主な利用者	市民(全市的)			観光客		—								
	延利用者数(人)	R4	14,520		R5	18,712		R6	19,775						
	1日当たり利用者数(人)	R4	47		R5	59		R6	63						
	利用料金	入館料	一般250円、高校・大学生150円、小・中学生50円 (特別展開催期間は特別料金)					貸館利用料							

※令和5年4月1日から中学生以下無料。市内在住の65歳以上の方、障がい者手帳等をお持ちの方と同伴者1名は半額。
(利用料金の詳細については施設ホームページに掲載)

駐車場の有無				職員数(人)	
駐車場の有無	有	自動車	23	正職員	会計年度任用職員
利用時間	9:00～17:00	原付・バイク	有		
入出庫時間	9:00～17:00	自転車	有	10	8
バリアフリーの状況				自家発電設備等	
車いす駐車場	出入り口のスロープ	障害者用エレベーター	オストメイト 対応トイレ	自家発電設備	再生可能 エネルギー設備
○	○	○	－	○	－
災害指定避難					
指定緊急避難場所					蔵書数 (冊)
指定避難所					
洪水	土砂	地震	大規模な 火災	火山	
－	－	－	－	－	－

施設運営費の状況							(単位:千円)
		令和4年度	地元 発注率	令和5年度	地元 発注率	令和6年度	地元 発注率
支出	人に係る経費	63,492		77,461		87,851	
	企画運営費	17,488	100%	16,019	100%	14,976	100%
	施設の維持管理費	49,882	100%	55,793	100%	57,225	100%
	うち、光熱水費	16,814		17,682		17,979	
	うち、委託料	27,520	100%	31,143	100%	33,966	100%
	合計	130,862		149,273		160,052	
収入 (財源)	使用料	2,070		2,985		3,216	
	その他	2,940		3,875		2,709	
	一般財源	125,852		142,413		154,127	
	合計	130,862		149,273		160,052	
施設運営費の特徴				支出経費の構成割合(令和6年度)			
1. 人に係る経費 特別展・企画展開催や資料の収集保存など企画運営業務に10人、その他の施設運営や管理に6人が従事しています。 2. 企画運営費 特別展、企画展開催にかかる経費及び、集客を図るための新聞への広告掲載費、看板作成費等に一定の経費を要しています。 3. 施設の維持管理費 収蔵品や展示品の適切な温湿度管理のため、常時空調設備を稼働させる必要があり、これに伴う電気代を要しています。 また、受付業務、館内の監視業務等に一定の経費を要しています。 4. その他 その他収入の主なものは建物貸付収入です。				 維持管理費(その他) 2% 維持管理費(委託料) 21% 維持管理費(光熱水費) 11% 企画運営費 9% 人に係る経費 55%			

取組の状況	
設置条例	八戸市博物館条例
運営方針等	先人の優れた文化遺産を保存して後世に引き継ぐとともに、その一部を展示公開し、八戸の風土と歴史を紹介する。
取組の内容	1. 施設の特徴 当館では、考古・歴史・民俗・無形資料の常設展示を主体としており、そのほかに特別展や企画展を開催しています。 また、教育普及活動として、講演会や博物館クラブなどを実施しています。 2. 主な事業 (1) 常設展の開催 考古－縄文時代から中世までの出土品等 548点 歴史－八戸2万石の城下町としての様子等 90点 民俗－八戸の漁業・農業・信仰・芸能等 217点 無形－八戸の民謡・昔話・わらべ歌・方言、市内の各学校の校歌、八戸の観光等 51点 (2) 特別展の開催 夏季特別展「さらめく八戸」 会期:令和6年7月20日(土)～9月16日(月・祝) 入館者数:5,160人 秋季特別展「境界線上の彼女たち」 会期:令和6年10月5日(土)～11月24日(日) 入館者数:4,419人 (3) 企画展・パネル展の開催 ①企画展「新収蔵資料展」 令和5年度に新たに収蔵した資料を紹介する企画展 「Ⅰ・民俗」 会期:令和6年4月13日(土)～5月19日(日) 入館者数:2,385人 「Ⅱ・歴史」 会期:令和6年6月1日(土)～7月7日(日) 入館者数:1,405人



常設展示室

- ②ミニパネル展「八戸の防災－災害と供養－」
防災意識の高揚を目的として、毎年、防災月間の9月に開催
会期：令和6年9月1日(日)～9月29日(日) 入館者数：2,550人

- ③新春ミニ企画「えと展－へび－」
令和7年の干支である「へび」に関する資料を紹介するミニ企画展
会期：令和6年12月7日(土)～令和7年1月13日(月・祝) 入館者数：772人

- ④企画展「えんぶり展」「ひな人形展」
国の重要無形民俗文化財に指定されている代表的な民俗芸能「えんぶり」の歴史や内容について紹介。
「ひな人形展」では、八戸の商家に伝えられた享保雛、昭和期の古今雛のほか、日本各地の郷土雛・郷土人形を紹介する。
えんぶり展 会期：令和7年1月25日(土)～3月2日(日) 入館者数：1,924人
ひな人形展 会期：令和7年2月15日(土)～3月23日(日) 入館者数：2,110人



企画展「えんぶり展」

(4) 教育普及活動の実施

- ①博物館クラブ
小中学生から一般を対象とした体験学習講座 計9回開催 参加者数 延べ143人

- ②おとなの博物館クラブ
高校生以上を対象とした本格的な体験講座 計2回開催 参加者 12人

- ③館外フィールドワーク「八戸城下めぐり」
中心街を歩きながら、八戸藩政時代の城下町であった名残をめぐる。
計2回開催 参加者数 28人

- ④市民のための歴史講座(博図連携事業)
共通テーマによる歴史講座。令和6年度のテーマは「書籍と図書館」
計4回開催 参加者数 173人



博物館クラブ

(5) 資料管理

- ①令和6年度寄贈資料
考古資料 1点 歴史資料 40点 民俗資料 482点 総点数 523点

②収蔵資料保存修理

- ・重要文化財保存修理事業「青森県丹後平古墳出土品」
令和6年度 鍔形飾金具1点、鉄刀2点、鉄鏃9点、鉄轡1点、環状製品6点、
石製紡錘車1点 計20点
- ・重要文化財保存修理事業「櫛引遺跡出土品」
令和6年度 深鉢型土器 1点
- ・歴史・民俗資料保存修理
令和6年度 螺鈿小筆筒 1点
「大字櫛引村地押訂正絵図面」17枚、「盛岡城下周辺図」一式、「八戸廻御代官所絵図」1枚
なぎなた 銘「備前介宗次／安政四年八月日」、槍 銘「山城国住下坂作」各1点

(6) 収蔵資料



国指定重要文化財「櫛引遺跡出土品」



県重宝「菊牡丹唐草轡十文字紋時絵」

3. 維持管理費と財源の見通しについて

○過去3年度における施設運営費の平均（単位：千円）

支出	人に係る経費	76,268
	企画運営費	16,161
	施設の維持管理費	54,300
	うち、光熱水費	17,492
	うち、委託料	30,876
	合計	146,729
収入（財源）	使用料	2,757
	その他	3,175
	一般財源	140,797
	合計	146,729

(1)維持管理費について

①維持管理の状況について

博物館では、常設展示室に約1,000点、収蔵庫内に約74,000点もの文化財を有しており、文化財にとって最適な温湿度環境を確保するため、常時空調を稼働し、文化財の保存に努めています。今後、空調設備や消防設備などの設備更新を予定しており、維持補修費が増える見込みとなっています。

②維持管理費削減の取組

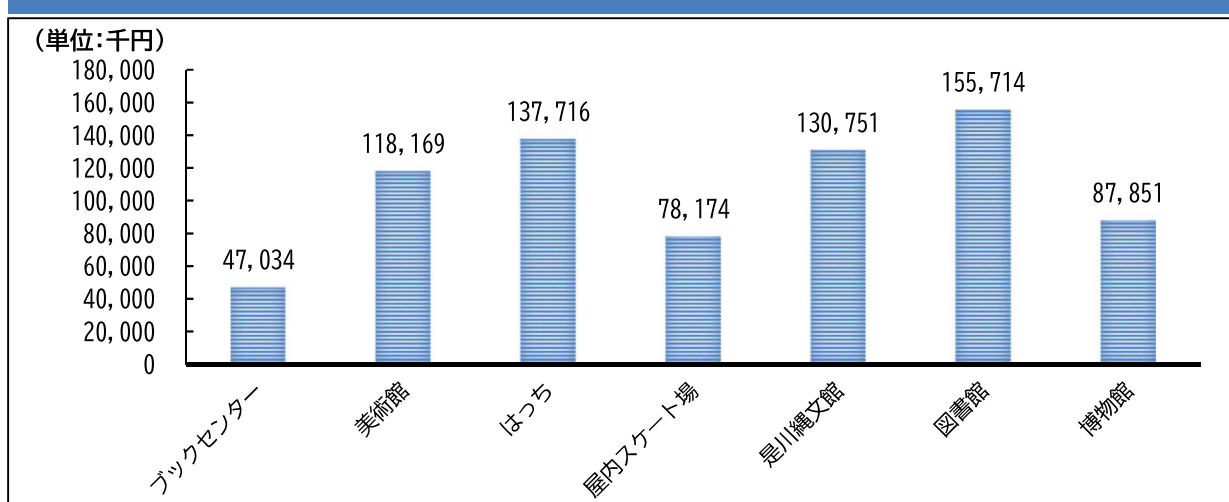
照明のこまめな消灯の徹底や、空調を行う場所や時間の制限、電気契約の見直しなどの実施により、これまで光熱水費の削減に努めています。また、博物館リニューアル事業の一環として照明のLED化を進め、更なる維持管理費削減に取り組めます。

(2)財源の見通しについて

施設使用料のほか市税や地方交付税などの一般財源を基本に、その他収入として建物貸付収入等を引き続き確保するとともに、新しい財源の確保に努めていきます。

【参考】令和6年度施設運営費の状況のまとめ

(1)人に係る経費



○施設ごとの職員数

(単位:人)

	ブックセンター	美術館	はっち	屋内スケート場	是川縄文館	図書館	博物館
正職員	3	12	11	9	15	14	10
会計年度 任用職員等	4	8	13	3	8	18	8
合計	7	20	24	12	23	32	18

■ブックセンター

- ブックセンターでは、主に企画運営事業に4人、その他の施設運営や管理に3人の職員が従事しています。選書や企画運営に専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較して長く、また休館日も少ないことからシフト制とするなど、施設運営に必要な職員を配置しています。

■美術館

- 美術館では、展覧会開催や美術作品の調査研究・収集保存など企画運営業務に11人、施設の日常的な管理や貸館対応、広報など総務経營業務に7人の職員が従事しています。企画運営業務には学芸員等の専門員を配置しているほか、1日の開館時間が本庁と比較して長く、また休館日が少ないことから、1日2交代のシフト制とすることで、開館時間は常時一定人数の職員を配置するようにし、運営に支障をきたさないようにしています。

■はっち

- はっちは、マチニワの管理運営も兼務しており、マチニワと併せて年間約3,000件の施設利用の使用許可事務及び設営等利用補助に対応するための人員を配置しているほか、企画事業を実施するための職員を配置していることに加え、開館時間が9時から21時までと長く、また休館日も少ないことから、シフト制により、どの時間帯も常に館の運営に必要な最小限の職員が確保できる体制をとっています。

■屋内スケート場

- 年間3,000件を超える施設利用の使用許可事務や施設の管理運営、合宿誘致やイベント誘致のための職員を配置していることに加え、開館時間が9時から21時までと1日の開館時間が本庁と比較して長く、また、休館日も少ないことから、シフト制により、どの時間帯も常に館の運営に必要な最小限の職員が確保できる体制をとっています。

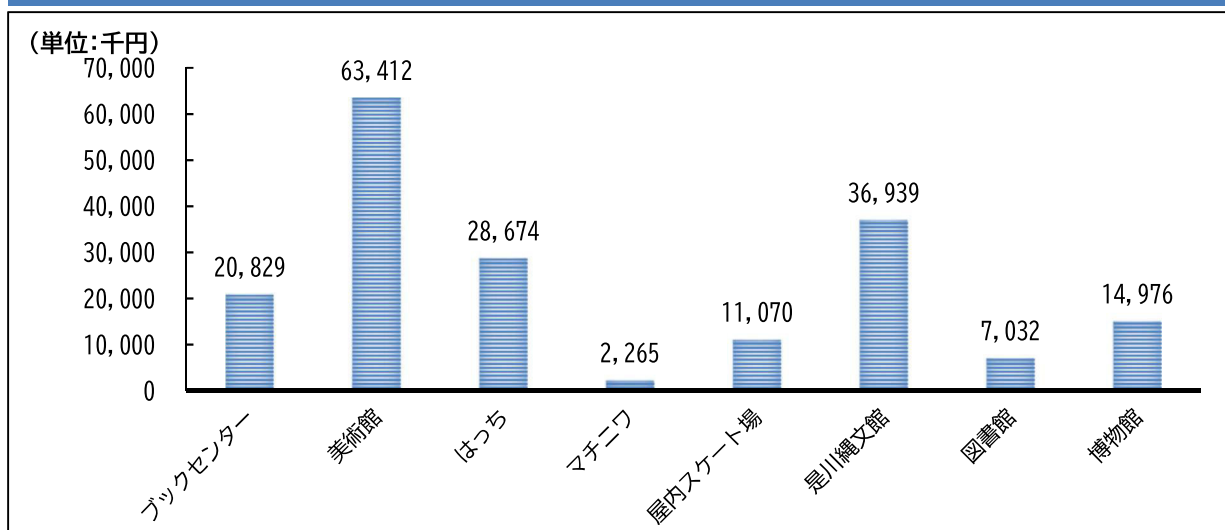
■是川縄文館

- 展示や各種講座など教育普及事業や史跡整備、世界遺産の保全活用、施設運営及び管理に15人、埋蔵文化財の発掘調査及び収蔵品整理に8人の職員が従事しています。休館日は週1回で土日祝日勤務もあることから、シフト制により、施設の運営に必要な職員が確保できる体制をとっています。

■図書館

- 図書等資料の貸出・返却及びレファレンス対応などの図書館運営業務に32人の職員が従事しており、うちブックスタート事業やおはなし会などの企画運営業務に10人、古文書に関する企画運営業務に5人の職員が従事しています。1日の開館時間が本庁と比較し長く、また休館日も少ないことから、シフト制とし、施設運営に必要な職員を配置しています。

(2)企画運営費



■ブックセンター

- ・「本を読む人を増やす 本を書く人を増やす 本でまちを盛りあげる」の運営基本方針のもと、作家を招いた講演会やワークショップ、民間書店と連携したブックフェスなど様々な企画に取り組んでいます。
 - ・上記に加え、企画運営費には書籍の仕入約 11,400 千円を含みます。この約 11,400 千円については、民間書店の会計処理では棚卸資産に相当し、書籍が売れたときの売上計上(※)と同時に費用となる性質のものです。書籍を返品することで仕入金額は市に返納されます。
- ※一般的に書籍の利益率はおよそ2割程度となっています。

■美術館

- ・年に3回程度開催する大型の展覧会開催にかかる経費及び、集客を図るための新聞・テレビ等への広告掲出に一定の経費を要しています。

■はっち

- ・条例及び中期運営方針に基づき、様々な企画事業を実施しています。また、イベント等の周知のための情報発信に一定の経費を要しています。

■屋内スケート場

- ・国際大会開催に係る開催地負担金や、国内最高記録等を記録した選手への報奨金などを計上しています。

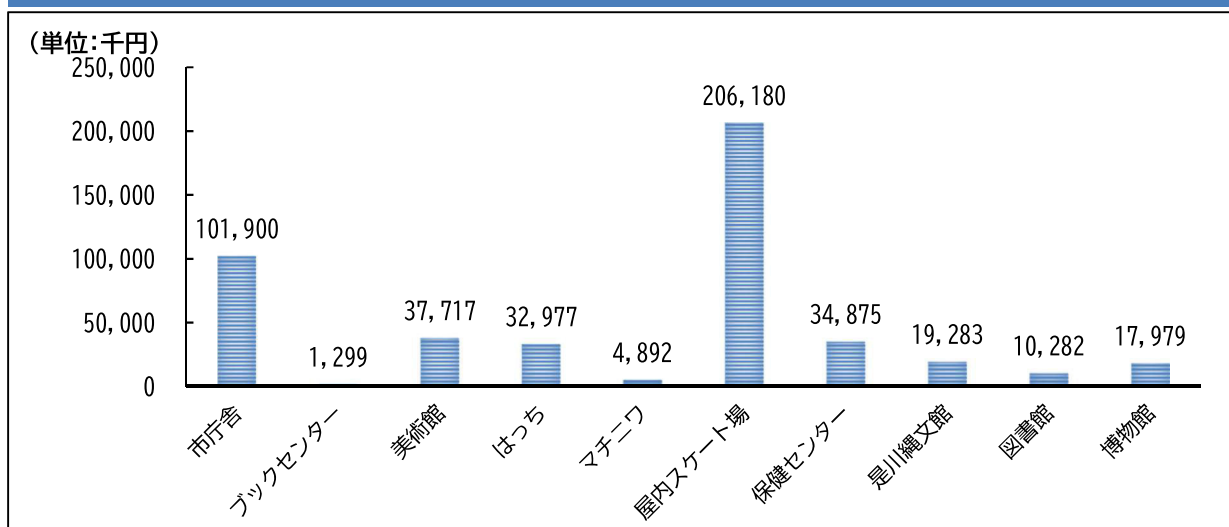
■是川縄文館

- ・企画展示のほか各種講座の開催、体験学習の実施などの教育普及や、公共交通手段確保のためのバス運行負担金、世界遺産登録 PR 等、是川遺跡の価値を発信するための経費を計上しています。

■博物館

- ・特別展、企画展開催にかかる経費及び、新聞への広告掲載費、看板作成費等、集客を図るための経費を計上しています。

(3)施設の維持管理費(光熱水費)



■市庁舎

・来庁者及び勤務職員が多いことから、施設運営に当たって電気、都市ガス及び水道使用に係る経費が多くなっています。

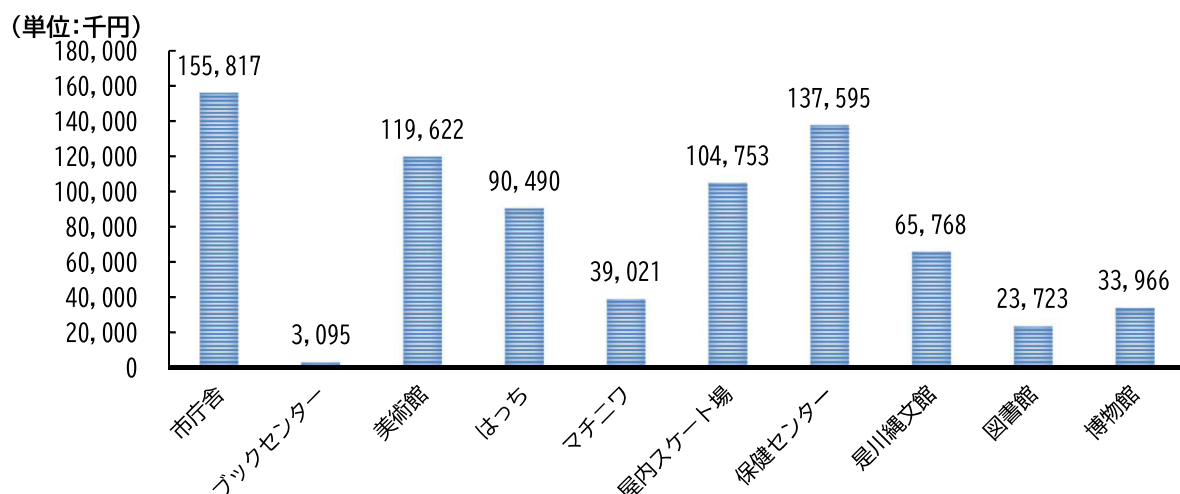
■美術館

・収蔵品や展示品の適切な管理のため、収蔵庫や展示室において24時間の空調運転・温湿度管理が必要となり、これに伴う電気代を要しています。

■屋内スケート場

・7月下旬から3月上旬までスケートリンクを開設し、スケート競技者の合宿受入れのほか、競技会の開催、学校体育、市民のスケート滑走等に供しています。リンク開設期間において、スケートリンクの良質な氷とアリーナ内の空調環境を維持するためには、24時間の空調運転及び温湿度管理が必要であるため、電気・ガス使用に係る経費が多くなっています。

(4)施設の維持管理費(委託料)



■市庁舎

・延床面積が広いことに加えて会議室等の部屋が多いことから清掃、警備に一定の経費を要しています。

■美術館

・空調機器等の保全を図るための委託料を要するほか、貸館受付やチケット販売等の総合案内業務、展示室の監視業務等に一定の経費が必要となります。

■はっち・マチニワ

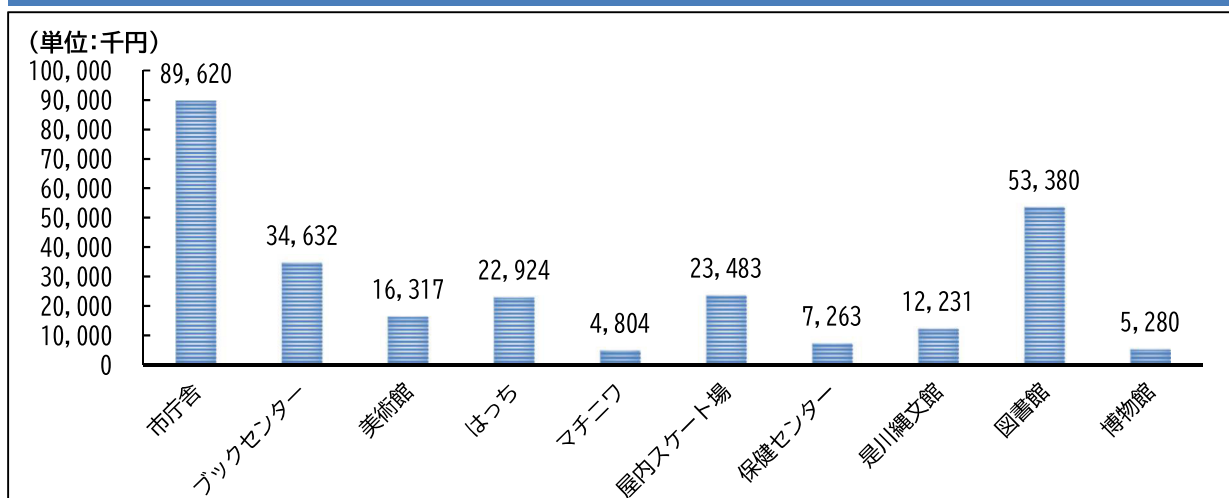
・はっちでは、マチニワを一体的に管理することにより、清掃や警備などをそれぞれで行うより効率的な業務委託が可能となっています。

・一方で、はっちでは、マチニワの朝6時と夜11時の開閉業務や、アーティストが滞在しながら創作活動に取り組むアーティスト・イン・レジデンス事業への対応などから、有人による24時間警備を行っているほか、施設利用に関する受付案内や観光案内などのインフォメーション業務、貸館受付に必要なシステム経費などが必要となります。また、清掃業務委託では、はっちの開館時間に合わせた日常清掃に加え、貸館利用の都度部屋を掃除する対応を取っています。他にもエレベーター、エスカレーターなどの昇降機設備、シアターの舞台照明、音響設備の維持管理も必要となります。

■屋内スケート場

・スケートリンクの整備作業をはじめ、冷凍設備や消防用設備、計装機器等の保守点検など施設特有の専門性を要する業務と、リンクや中地利用者の安全管理やスケート靴の貸出、清掃業務などの一般的な管理業務があり、内容が多岐にわたっていることから、効果的、効率的な維持管理を図り、健全な施設運営を行うため、包括的に業務委託しています。

(5)施設の維持管理費(その他)



■市庁舎

・総合的な行政機関として様々な業務を行っており、来庁者の駐車料金の減免に係る経費や電話等の使用に係る経費、その他庁舎の運営に係る経費等、多岐にわたって一定の経費を要しています。

■ブックセンター

・建物借上料(賃料)約15,600千円が含まれています。通常、公共施設の整備には建物の建築工事費を要し、財源に市債等が充てられ、その償還が公債費として生じます。ブックセンターは民間の再開発ビルに賃貸で入居しているため、建築工事費と公債費が抑えられ、それに代わる経費として建物借上料が掛かっていると考えられます。

■美術館

・美術館では、施設ガイドや展覧会スケジュール等の広報物制作・配布や、事業や貸館等で必要な備品・消耗品類の購入などに一定の経費を要しています。

■総合保健センター

・総合的な行政機関として様々な業務を行っており、多岐にわたって一定の経費を要しています。

■図書館

・図書資料、視聴覚資料、新聞の購入及び図書館システムの運用に係る費用など一定の経費を要しています。

令和7年度はちのへ大型公共施設見える化シート
(令和6年度決算分)

八戸市 総務部 行政管理課

〒031-8686 八戸市内丸一丁目1-1

TEL:0178-43-2150

八戸市ホームページ:<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/>